

令和7年度 再評価実施後5年経過した事業箇所の再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	防災・安全交付金 (広域河川改修事業)
事業箇所	村上市滝の前～岩沢 地内 村上市山辺里～下山田 地内	河川名	二級河川三面川水系三面川

1 事業の概要

<p>① 事業の目的・効果・必要性等</p> <p>二級河川三面川は、その源を新潟県と山形県との境界に位置する朝日連峰以東岳（標高1,771m）に発し、山岳地帯を流下して奥三面ダム、三面ダムに達し、丘陵地を流下しながら、下流平野部で高根川、山田川、門前川を合流して村上市街地北縁を西流した後、村上市瀬波地先で日本海に注ぐ、幹川流路延長約50km、流域面積677km²の二級河川である。</p> <p>三面川流域では、昭和42年8月28日～29日の羽越水害で浸水面積1,900ha、浸水戸数1,700戸の甚大な被害を受けた他、平成9年6月7日、平成17年10月23日など、たびたび浸水被害を受けている。近年では令和4年8月3日～4日の豪雨では浸水面積12.6ha、床上浸水1戸の被害が発生している。</p> <p>本事業を完成させることにより、治水安全度 1/30 の計画流量 2400m³/s を安全に流下させることで、昭和42年の羽越水害と同規模降雨により発生する洪水に対して浸水被害の解消を図ることができる。</p>																																																																									
<p>② 事業内容</p> <p>延長 L=30,940m</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>築堤工</td><td>V=</td><td>382,713m³</td></tr> <tr><td>掘削工</td><td>V=</td><td>1,204,509m³</td></tr> <tr><td>護岸工</td><td>A=</td><td>279,868m²</td></tr> <tr><td>樋門・樋管</td><td>N=</td><td>38基</td></tr> <tr><td>床固工</td><td>N=</td><td>13基</td></tr> <tr><td>根固工</td><td>L=</td><td>1,932m</td></tr> <tr><td>その他親水施設</td><td>N=</td><td>2箇所</td></tr> <tr><td>道路橋・鉄道</td><td>N=</td><td>30橋</td></tr> <tr><td>サイフォン</td><td>N=</td><td>1基</td></tr> <tr><td>堰</td><td>N=</td><td>1基</td></tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>三面川工区</td><td>9,800m (1/30)</td><td>(2,400m³/s)</td></tr> <tr><td>門前川工区</td><td>8,100m (1/30)</td><td>(350m³/s)</td></tr> <tr><td>高根川工区</td><td>7,400m (1/30)</td><td>(950m³/s)</td></tr> <tr><td>山田川工区</td><td>4,580m (1/30)</td><td>(130m³/s)</td></tr> <tr><td>小谷川工区</td><td>1,060m (1/30)</td><td>(60m³/s)</td></tr> </table>	築堤工	V=	382,713m ³	掘削工	V=	1,204,509m ³	護岸工	A=	279,868m ²	樋門・樋管	N=	38基	床固工	N=	13基	根固工	L=	1,932m	その他親水施設	N=	2箇所	道路橋・鉄道	N=	30橋	サイフォン	N=	1基	堰	N=	1基	三面川工区	9,800m (1/30)	(2,400m ³ /s)	門前川工区	8,100m (1/30)	(350m ³ /s)	高根川工区	7,400m (1/30)	(950m ³ /s)	山田川工区	4,580m (1/30)	(130m ³ /s)	小谷川工区	1,060m (1/30)	(60m ³ /s)	<p>③ 残事業内容（令和7年度以降）</p> <p>延長 L=14,336m</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>築堤工</td><td>V=</td><td>55,959m³</td></tr> <tr><td>掘削工</td><td>V=</td><td>968,065m³</td></tr> <tr><td>護岸工</td><td>A=</td><td>73,993m²</td></tr> <tr><td>樋門・樋管</td><td>N=</td><td>7基</td></tr> <tr><td>道路橋・鉄道</td><td>N=</td><td>13橋</td></tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>三面川工区</td><td>3,780m (1/30)</td><td>(2,400m³/s)</td></tr> <tr><td>高根川工区</td><td>7,400m (1/30)</td><td>(950m³/s)</td></tr> <tr><td>山田川工区</td><td>2,396m (1/30)</td><td>(130m³/s)</td></tr> <tr><td>小谷川工区</td><td>760m (1/30)</td><td>(60m³/s)</td></tr> </table>	築堤工	V=	55,959m ³	掘削工	V=	968,065m ³	護岸工	A=	73,993m ²	樋門・樋管	N=	7基	道路橋・鉄道	N=	13橋	三面川工区	3,780m (1/30)	(2,400m ³ /s)	高根川工区	7,400m (1/30)	(950m ³ /s)	山田川工区	2,396m (1/30)	(130m ³ /s)	小谷川工区	760m (1/30)	(60m ³ /s)
築堤工	V=	382,713m ³																																																																							
掘削工	V=	1,204,509m ³																																																																							
護岸工	A=	279,868m ²																																																																							
樋門・樋管	N=	38基																																																																							
床固工	N=	13基																																																																							
根固工	L=	1,932m																																																																							
その他親水施設	N=	2箇所																																																																							
道路橋・鉄道	N=	30橋																																																																							
サイフォン	N=	1基																																																																							
堰	N=	1基																																																																							
三面川工区	9,800m (1/30)	(2,400m ³ /s)																																																																							
門前川工区	8,100m (1/30)	(350m ³ /s)																																																																							
高根川工区	7,400m (1/30)	(950m ³ /s)																																																																							
山田川工区	4,580m (1/30)	(130m ³ /s)																																																																							
小谷川工区	1,060m (1/30)	(60m ³ /s)																																																																							
築堤工	V=	55,959m ³																																																																							
掘削工	V=	968,065m ³																																																																							
護岸工	A=	73,993m ²																																																																							
樋門・樋管	N=	7基																																																																							
道路橋・鉄道	N=	13橋																																																																							
三面川工区	3,780m (1/30)	(2,400m ³ /s)																																																																							
高根川工区	7,400m (1/30)	(950m ³ /s)																																																																							
山田川工区	2,396m (1/30)	(130m ³ /s)																																																																							
小谷川工区	760m (1/30)	(60m ³ /s)																																																																							
<p>④ 事業費</p> <p>20,400百万円[18,900百万円]</p>	<p>⑦ 進捗率（事業費ベース）</p> <p>54.6% (=11,142/20,400)</p>																																																																								
<p>⑤ 執行済事業費</p> <p>11,142百万円[10,728百万円]</p>	<p>⑧ 現在の費用対効果(B/C)〔基準年 R7年〕</p> <p>全体 B/C=7.53 (460,964/61,198)</p> <p>残事業 B/C=8.17 (54,490/6,666)</p>																																																																								
<p>⑥ R7年度以降残事業費</p> <p>9,258百万円[8,172百万円]</p>	<p>⑨ 前回費用対効果(B/C)〔基準年 R2年〕</p> <p>B/C=7.84(365,786/46,651)</p>																																																																								
<p>⑩ 便益の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>被害防止便益</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>(全体事業)</td><td>(残事業)</td><td></td></tr> <tr><td>460,910百万円</td><td>54,463百万円</td><td></td></tr> <tr><td>[365,741百万円]</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>残存価値便益</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>(全体事業)</td><td>(残事業)</td><td></td></tr> <tr><td>54百万円</td><td>27百万円</td><td></td></tr> <tr><td>[45百万円]</td><td></td><td></td></tr> </table>	被害防止便益			(全体事業)	(残事業)		460,910百万円	54,463百万円		[365,741百万円]			残存価値便益			(全体事業)	(残事業)		54百万円	27百万円		[45百万円]			<p>⑪ 費用の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建設費用</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>(全体事業)</td><td>(残事業)</td><td></td></tr> <tr><td>55,364百万円</td><td>5,988百万円</td><td></td></tr> <tr><td>[42,060百万円]</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>維持管理費用</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>(全体事業)</td><td>(残事業)</td><td></td></tr> <tr><td>5,834百万円</td><td>678百万円</td><td></td></tr> <tr><td>[4,591百万円]</td><td></td><td></td></tr> </table>	建設費用			(全体事業)	(残事業)		55,364百万円	5,988百万円		[42,060百万円]			維持管理費用			(全体事業)	(残事業)		5,834百万円	678百万円		[4,591百万円]																										
被害防止便益																																																																									
(全体事業)	(残事業)																																																																								
460,910百万円	54,463百万円																																																																								
[365,741百万円]																																																																									
残存価値便益																																																																									
(全体事業)	(残事業)																																																																								
54百万円	27百万円																																																																								
[45百万円]																																																																									
建設費用																																																																									
(全体事業)	(残事業)																																																																								
55,364百万円	5,988百万円																																																																								
[42,060百万円]																																																																									
維持管理費用																																																																									
(全体事業)	(残事業)																																																																								
5,834百万円	678百万円																																																																								
[4,591百万円]																																																																									

※④～⑥、⑩、⑪の[]内は前回再評価時の数値

※総事業費：事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※総費用：総事業費に維持管理費(下水道事業は更新費用も含む)を加え、その金額を現在価値化したもの

2 評価の視点

<p>⑫ 事業の進捗が遅れている理由(前回評価時からの変化、遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載)</p> <p>現在は令和4年8月の新潟県北部豪雨により浸水被害を受けた三面川本川の改修を進めている。三面川は、道路事業と併せて整備を進め、一部区間で築堤を先行させ早期効果発現に取り組んでいる。引き続き整備を進める見込み。</p>
<p>⑬ 事業を継続することにより発揮される効果(前回評価時からの変化についても記載)</p> <p>事業継続することにより、河川整備計画で定めた河道を整備することで、治水安全度1/30規模の計画流量2400m³/sを安全に流下させることができ、昭和42年羽越災害相当の浸水被害解消が図ることができる。</p>
<p>⑭ 便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果</p> <p>治水経済調査マニュアルによる便益(水害被害想定額)には含まれないが、事業完成による効果として、以下の項目も見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 人命等の人的被害を防ぐ人身被害抑止効果・ ライフライン切断等による波及被害抑止効果・ 人身被害や資産被害等による精神的被害抑止効果
<p>⑮ 社会経済情勢の変化(前回評価時からの変化についても記載)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 近年の気候変動による洪水被害の激甚化に対応するため、流域内のあらゆる関係者が協働し流域全体で水害を軽減させる「流域治水」への転換が推進されている。浸水被害を軽減させる対策として、河川整備は今後も重要な役割を担っている。・ 人件費、資材費、エネルギー価格等の上昇により、建設工事費の増加が顕著であり、総事業費の増加や事業期間の延伸が避けられない状況である。・ 令和4年8月の新潟県北部豪雨により流域内で広く浸水被害が発生し、治水事業に対する期待が非常に高くなっている。
<p>⑯ B/Cの変化の要因(前回評価時から需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 浸水想定区域内の資産を最新データに見直した結果、便益(B)が増加した。・ 物価高騰の影響等を反映して総事業費を見直し、評価基準年度を再設定のうえ、現在価値化した結果、費用(C)が増加した。
<p>⑰ コスト縮減、代替案の可能性(前回評価時からの変化についても記載)</p> <p>平成27年7月に三面川水系河川整備計画が策定され、河道断面等の検討を行い、現計画を最適案として取りまとめており、地元の協力体制も整っている。事業実施にあたり、引き続き他機関との調整による発生残土の有効利用等検討し、コスト縮減に努める。</p>
<p>⑱ 関係機関等の意向、関連事業と調整状況等(前回評価時からの変化についても記載)</p> <p>岩船郡・村上市土木振興会等から事業促進についての要望が寄せられている。</p>

3 今後の実施方針(案) ※今後の見通しを併せて記載のこと

<ul style="list-style-type: none">・ 改修済の支川門前川においては、令和4年8月の新潟北部豪雨時に浸水被害を防止できたことから整備効果を発現している。・ 未改修の三面川本川および各支川において、令和4年8月の新潟県北部豪雨で浸水被害が発生するなど、治水安全度の低い区間が残っていることから、整備を進める必要があり、事業を継続することとしたい。

4 経緯

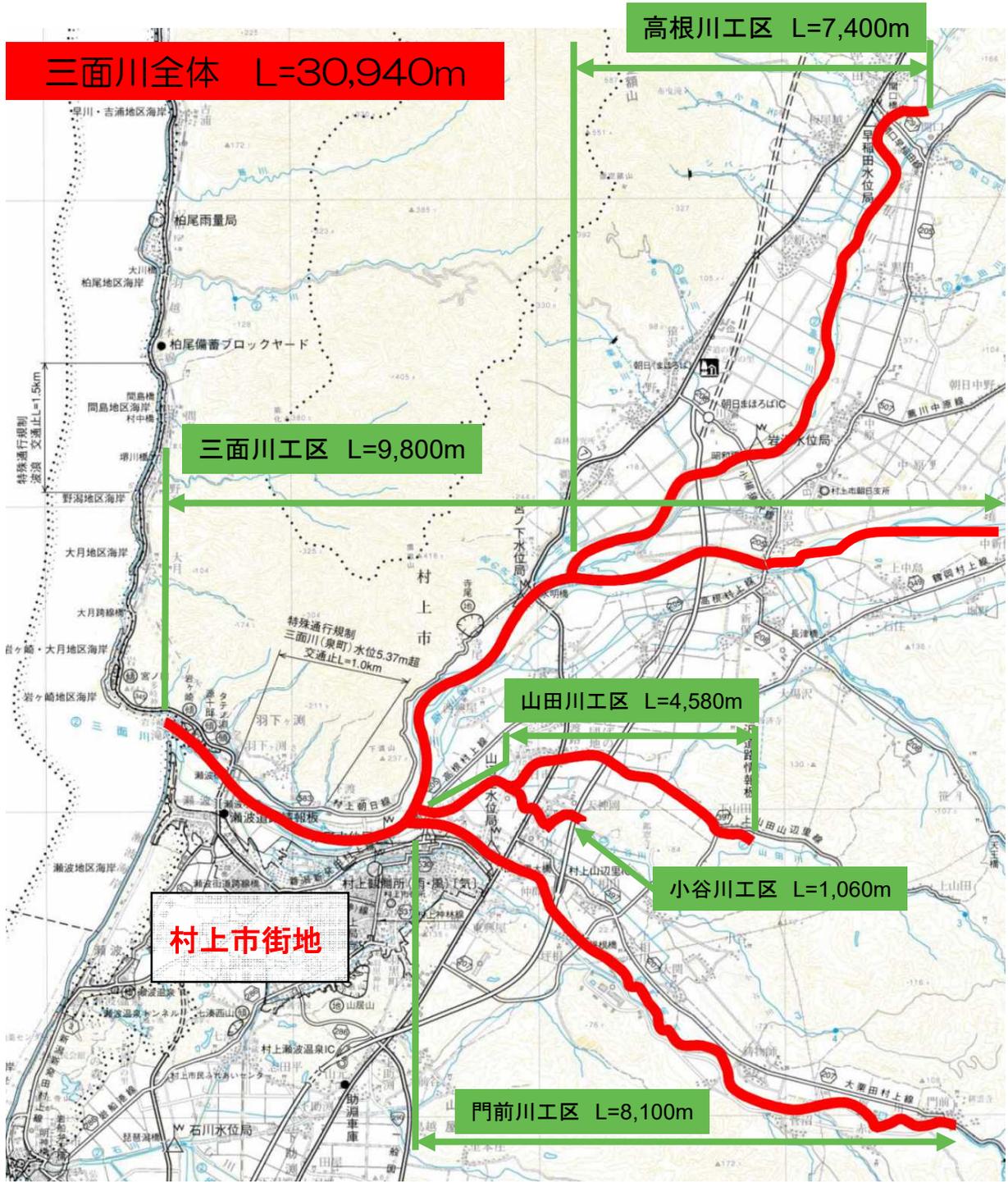
区分	当初(H10)	再評価(H15)	第二回再評価(H20)	第三回再評価(H25)
工期	S35～	S35～H30年代後半	S35～H50年代	S35～H50年代
総事業費	11,735百万円	14,617百万円	17,517百万円	17,517百万円
事業内容	延長 L=9,800m 〔三面川工区 9,800m〕 掘削・築堤 2,110,000m ³ 護岸工 153,000m ² 道路橋・鉄道 3基 三面川工区 3,400m ³ /s (1/100規模)	延長 L=20,300m 〔三面川工区 9,800m 門前川工区 8,100m 高根川工区 2,400m〕 掘削・築堤 2,670,000m ³ 護岸工 299,000m ² 樋門・樋管 21基 床固工 10基 根固工 3,436m 親水施設 2箇所 道路橋・鉄道 9基 三面川工区 3,400m ³ /s (1/100規模) 門前川工区 450m ³ /s (1/100規模) 高根川工区 1,400m ³ /s (1/100規模)	延長 L=25,360m 〔三面川工区 9,800m 門前川工区 8,100m 高根川工区 2,400m 山田川工区 4,660m 小谷川工区 400m〕 築堤工 339,740m ³ 掘削工 2,426,000m ³ 護岸工 327,400m ² 樋門・樋管 33基 床固工 15基 根固工 3,436m 親水施設 2箇所 道路橋・鉄道 21基 サイフォン 1基 堰 2基 三面川工区 3,400m ³ /s (1/100規模) 門前川工区 450m ³ /s (1/100規模) 高根川工区 1,400m ³ /s (1/100規模) 山田川工区 130m ³ /s (1/30規模) 小谷川工区 50m ³ /s (1/30規模)	延長 L=25,360m 〔三面川工区 9,800m 門前川工区 8,100m 高根川工区 2,400m 山田川工区 4,660m 小谷川工区 400m〕 築堤工 339,740m ³ 掘削工 2,426,000m ³ 護岸工 327,400m ² 樋門・樋管 33基 床固工 15基 根固工 3,436m 親水施設 2箇所 道路橋・鉄道 21基 サイフォン 1基 堰 2基 三面川工区 3,400m ³ /s (1/100規模) 門前川工区 450m ³ /s (1/100規模) 高根川工区 1,400m ³ /s (1/100規模) 山田川工区 130m ³ /s (1/30規模) 小谷川工区 50m ³ /s (1/30規模)
費用対効果(B/C)	—	B/C=1.96 (=29,319/14,989)	B/C=3.44 (=72,865/21,152)	B/C=3.40 (=89,183/26,224)
区分	当初(H10)	再評価(H15) 山田川、小谷川	—	—
工期	S53～	S35～H30年代後半	—	—
総事業費	2,200百万円	2,900百万円	—	—
事業内容	延長 L=5,060m 〔山田川工区 4,660m 小谷川工区 400m〕 掘削・築堤 85,000m ³ 護岸工 28,400m ² 道路橋 11基 堰 1基 サイフォン 1基 山田川工区 130m ³ /s (1/30規模) 小谷川工区 50m ³ /s (1/30規模)	延長 L=5,060m 〔山田川工区 4,660m 小谷川工区 400m〕 掘削・築堤 190,000m ³ 護岸工 38,900m ² 道路橋 11基 堰 1基 サイフォン 1基 山田川工区 130m ³ /s (1/30規模) 小谷川工区 50m ³ /s (1/30規模)	—	—
費用対効果(B/C)	—	B/C=1.54 (=4,603/2,996)	—	—

4 経緯

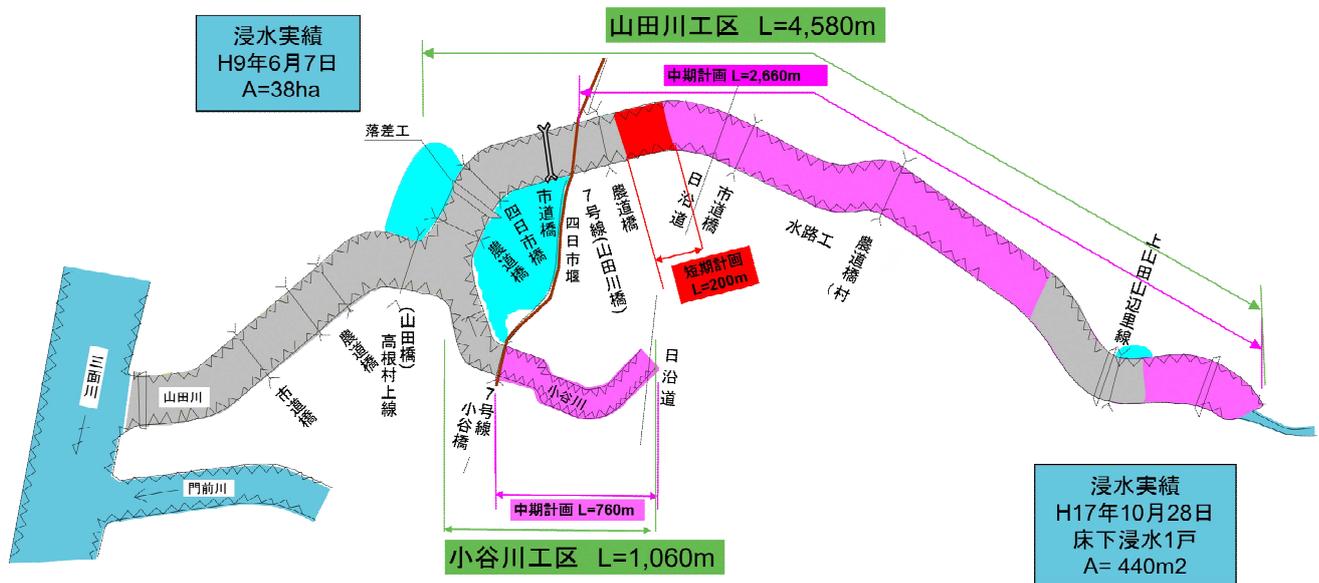
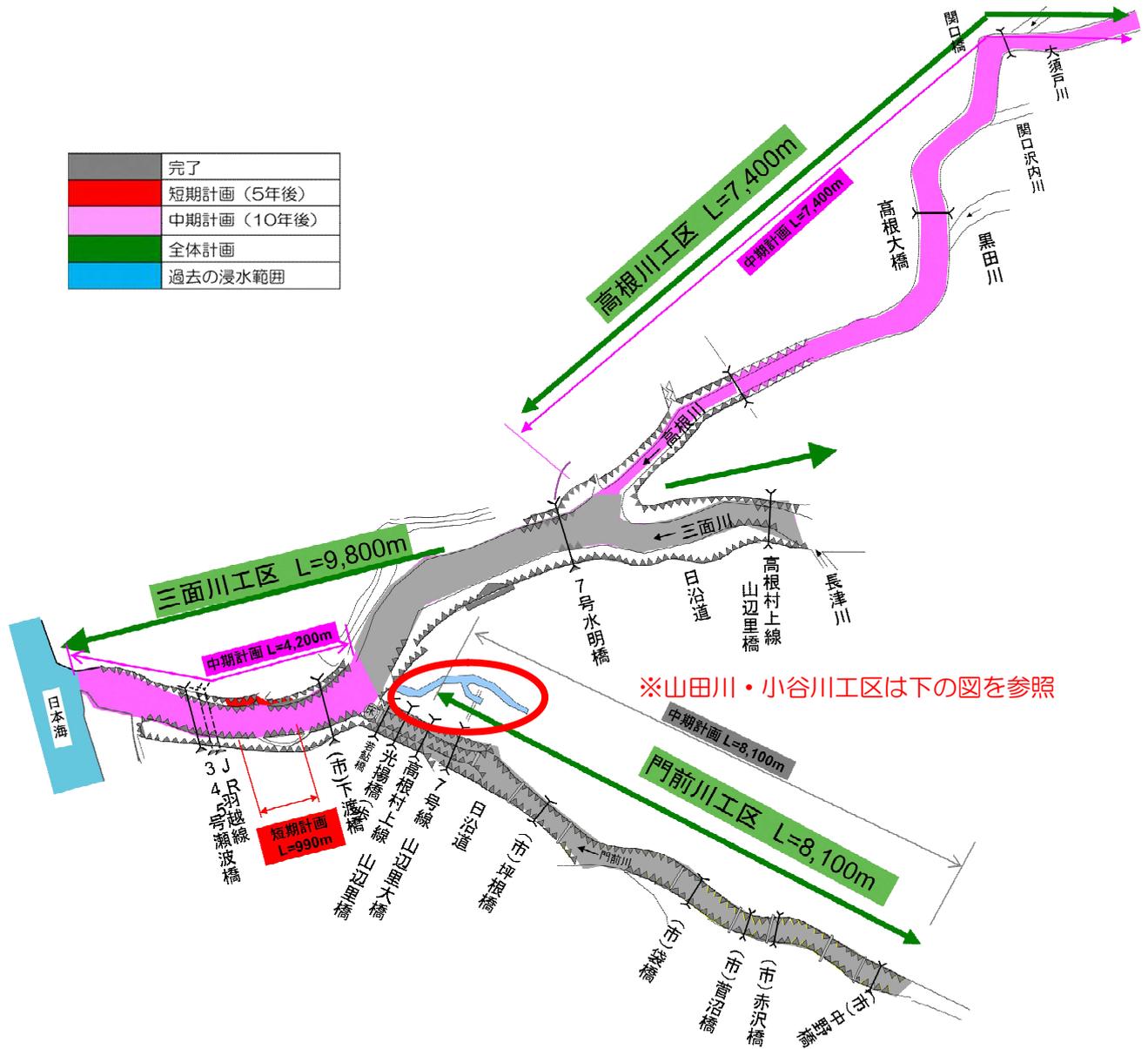
区分	前々回再評価(H27) 計画変更		前回再評価(R2)	
工期	S35～H50年代		S35～R20年代	
総事業費	18,900百万円		18,900百万円	
事業内容	(事業全体) 延長 L=30,940m 三面川工区 9,800m 門前川工区 8,100m 高根川工区 7,400m 山田川工区 4,580m 小谷川工区 1,060m 築堤工 382,713m ³ 掘削工 1,204,509m ³ 護岸工 279,868m ² 樋門・樋管 38基 床固工 13基 根固工 1,932m 親水施設 2箇所 道路橋・鉄道 30基 サイフォン 1基 堰 1基 三面川工区 2,400m ³ /s (1/30規模) 門前川工区 350m ³ /s (1/30規模) 高根川工区 950m ³ /s (1/30規模) 山田川工区 130m ³ /s (1/30規模) 小谷川工区 60 m ³ /s (1/30規模)	(残事業) 延長 L=23,120 三面川工区 4,200m 門前川工区 8,100m 高根川工区 7,400m 山田川工区 2,660m 小谷川工区 760m 築堤工 83,761m ³ 掘削工 971,849m ³ 護岸工 74,809m ² 樋門・樋管 9基 床固工 5基 道路橋・鉄道 13基	(事業全体) 延長 L=30,940m 三面川工区 9,800m 門前川工区 8,100m 高根川工区 7,400m 山田川工区 4,580m 小谷川工区 1,060m 築堤工 382,713m ³ 掘削工 1,204,509m ³ 護岸工 279,868m ² 樋門・樋管 38基 床固工 13基 根固工 1,932m 親水施設 2箇所 道路橋・鉄道 30基 サイフォン 1基 堰 1基 三面川工区 2,400m ³ /s (1/30規模) 門前川工区 350m ³ /s (1/30規模) 高根川工区 950m ³ /s (1/30規模) 山田川工区 130m ³ /s (1/30規模) 小谷川工区 60m ³ /s (1/30規模)	(残事業) 延長 L=14,840 三面川工区 4,200m 高根川工区 7,400m 山田川工区 2,480m 小谷川工区 760m 築堤工 83,679m ³ 掘削工 971,125m ³ 護岸工 74,326m ² 樋門・樋管 9基 道路橋・鉄道 13基
費用対効果 (B/C)	B/C=5.0 (事業全体) (183,444/36,412)		B/C=7.84 (事業全体) (365,786/46,651)	

4 経緯

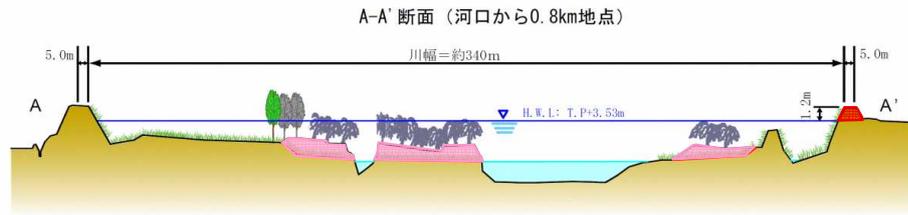
区 分	今回評価(R7)	
工 期	S35~R26	
総事業費	20,400百万円	
事業内容	(事業全体) 延長 L=30,940m 三面川工区 9,800m 門前川工区 8,100m 高根川工区 7,400m 山田川工区 4,580m 小谷川工区 1,060m 築堤工 382,713 ^{m³} 掘削工 1,204,509 ^{m³} 護岸工 279,868 ^{m²} 樋門・樋管 38基 床固工 13基 根固工 1,932m 親水施設 2箇所 道路橋・鉄道 30基 サイフォン 1基 堰 1基 三面川工区 2,400 ^{m³/s} (1/30規模) 門前川工区 350 ^{m³/s} (1/30規模) 高根川工区 950 ^{m³/s} (1/30規模) 山田川工区 130 ^{m³/s} (1/30規模) 小谷川工区 60 ^{m³/s} (1/30規模)	(残事業) 延長 L=14,336 三面川工区 3,780m 高根川工区 7,400m 山田川工区 2,396m 小谷川工区 760m 築堤工 55,959 ^{m³} 掘削工 968,065 ^{m³} 護岸工 73,993 ^{m²} 樋門・樋管 2基 道路橋・鉄道 13基
費用対効果 (B/C)	B/C=7.53 (事業全体) (460,964/61,198)	B/C=8.17 (残事業) (54,490/6,666)



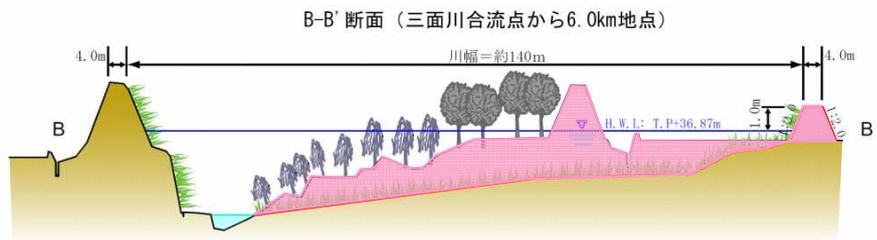
	完了
	短期計画 (5年後)
	中期計画 (10年後)
	全体計画
	過去の浸水範囲



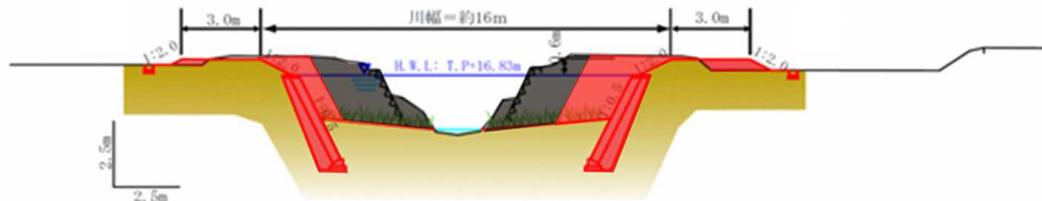
三面川工区 横断図



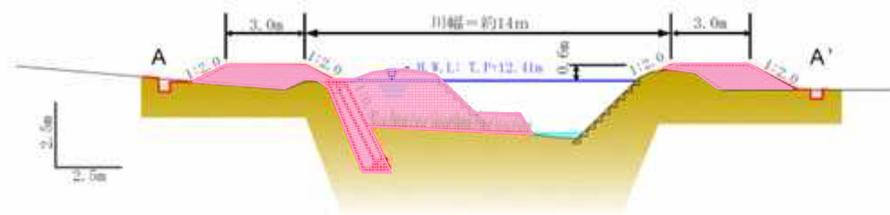
高根川工区 横断図



山田川工区 横断図



小谷川工区 横断図



将来計画

- ・ 三面川工区 : 治水安全度1/100規模 (3,300m³/s) の河道改修

全体計画(河川整備計画)

- ・ 三面川工区 : 治水安全度1/30規模 (2,400m³/s) の計画延長9,800mの河道改修
- ・ 門前川工区 : 治水安全度1/30規模 (350m³/s) の計画延長8,100mの河道改修
- ・ 高根川工区 : 治水安全度1/30規模 (950m³/s) の計画延長7,400mの河道改修
- ・ 山田川工区 : 治水安全度1/30規模 (130m³/s) の計画延長4,580mの河道改修
- ・ 小谷川工区 : 治水安全度1/30規模 (60m³/s) の計画延長1,060mの河道改修

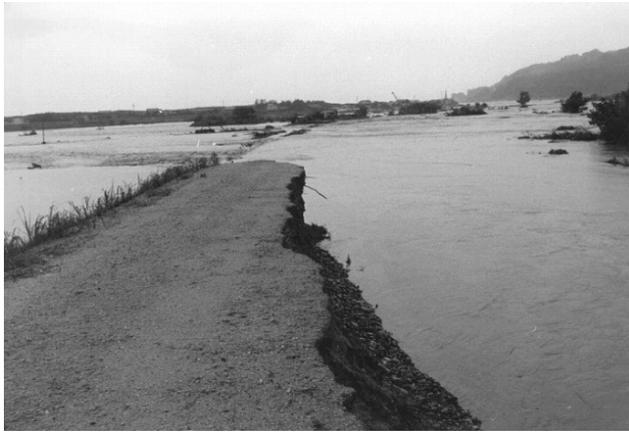
中期計画 (10年後)

- ・ 三面川工区 : 治水安全度1/30規模 (2,400m³/s) の河川整備計画延長4,200mの河道改修
(築堤・掘削)
- ・ 高根川工区 : 治水安全度1/30規模 (950m³/s)の河川整備計画延長7,400mの河道改修
(築堤・掘削)
- ・ 山田川工区 : 治水安全度1/30規模 (130m³/s)の河川整備計画延長2,660mの河道改修
(捷水路)
- ・ 小谷川工区 : 治水安全度1/30規模 (60m³/s)の河川整備計画延長760mの河道改修
(築堤・掘削)

短期計画 (5年後)

- ・ 三面川工区 : L=990m区間の築堤工事
- ・ 山田川工区 : L=200m区間の護岸工事

(参考) 状況写真



破堤の状況 (村上市瀬波)
昭和42年8月28日洪水時



市街地の様子 (村上市瀬波)
昭和42年8月28日洪水時



市街地の様子 (村上市四日市)
昭和42年8月28日洪水時



市街地の様子 (村上市四日市)
平成17年10月23日洪水時



三面川整備状況



山田川整備状況

令和7年度 再評価実施後5年経過した事業箇所の再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	防災・安全交付金 (総合流域防災事業)
事業箇所	長岡市飯島～ 小千谷市片貝町 地内	河川名	一級河川信濃川水系須川

1 事業の概要

<p>① 事業の目的・効果・必要性等</p> <p>一級河川須川は、その源を小千谷市と長岡市の境である薬師峠に発し山間部を約2km流下したのち、小千谷市坪野地内で平地部に入り、長岡市飯島地先で信濃川左岸に合流する流路延長13.3km、流域面積24.26km²、の一級河川である。</p> <p>須川では、昭和53年6月26日の梅雨前線豪雨により、浸水面積465ha、浸水戸数53戸の甚大な被害を受けた他、平成7年8月、平成23年7月などたびたび浸水被害を受けている。</p> <p>本事業を完成させることにより、治水安全度1/10規模の計画流量110m³/sを安全に流下させ、昭和53年6月の洪水と同規模降雨により発生する洪水に対し、浸水被害の解消をはかることができる。</p>																									
<p>② 事業内容</p> <p>延長 L=7,400m</p> <p>築堤・掘削工 345,400m³</p> <p>護岸工 123,400m²</p> <p>道路橋 23橋</p> <p>樋門・樋管 35基</p> <p>サイフォン 1式</p>	<p>③ 残事業内容（令和7年度以降）</p> <p>延長 L=7,400m（暫定完了5,321m）</p> <p>築堤・掘削工 124,300m³</p> <p>護岸工 46,800m²</p> <p>道路橋 9橋</p> <p>樋門・樋管 13基</p> <p>※信濃川合流点から県道神谷橋の上流230mまでの3,167mについては、治水安全度1/5規模でほぼ概成。 ※関越自動車道より上流、県営ほ場整備と一体で整備し、治水安全度1/5規模でほぼ概成。</p>																								
<p>④ 総事業費</p> <p>7,500百万円 [6,000百万円]</p>	<p>⑦ 進捗率（事業費ベース）</p> <p>67.6% (=5,073/7,500)</p>																								
<p>⑤ 執行済事業費</p> <p>5,073百万円 [4,884百万円]</p>	<p>⑧ 現在の費用対効果(B/C) [基準年 R7年]</p> <p>全体 B/C=11.0(294,130/26,839)</p> <p>残事業 B/C=31.1(48,364/1,555)</p>																								
<p>⑥ R7年度以降残事業費</p> <p>2,473百万円 [1,116百万円]</p>	<p>⑨ 前回の費用対効果(B/C) [基準年 R2年]</p> <p>B/C=9.2(181,315/19,677)</p>																								
<p>⑩ 便益の内訳</p> <p>被害防止便益</p> <table border="0"> <tr> <td>(全体事業)</td> <td>(残事業)</td> </tr> <tr> <td>294,108百万円</td> <td>48,359百万円</td> </tr> <tr> <td>[1,116百万円]</td> <td></td> </tr> </table> <p>残存価値便益</p> <table border="0"> <tr> <td>(全体事業)</td> <td>(残事業)</td> </tr> <tr> <td>22百万円</td> <td>5百万円</td> </tr> <tr> <td>[27百万円]</td> <td></td> </tr> </table>	(全体事業)	(残事業)	294,108百万円	48,359百万円	[1,116百万円]		(全体事業)	(残事業)	22百万円	5百万円	[27百万円]		<p>⑪ 費用の内訳</p> <p>建設費用</p> <table border="0"> <tr> <td>(全体事業)</td> <td>(残事業)</td> </tr> <tr> <td>24,233百万円</td> <td>1,387百万円</td> </tr> <tr> <td>[17,788百万円]</td> <td></td> </tr> </table> <p>維持管理費用</p> <table border="0"> <tr> <td>(全体事業)</td> <td>(残事業)</td> </tr> <tr> <td>2,606百万円</td> <td>168百万円</td> </tr> <tr> <td>[1,889百万円]</td> <td></td> </tr> </table>	(全体事業)	(残事業)	24,233百万円	1,387百万円	[17,788百万円]		(全体事業)	(残事業)	2,606百万円	168百万円	[1,889百万円]	
(全体事業)	(残事業)																								
294,108百万円	48,359百万円																								
[1,116百万円]																									
(全体事業)	(残事業)																								
22百万円	5百万円																								
[27百万円]																									
(全体事業)	(残事業)																								
24,233百万円	1,387百万円																								
[17,788百万円]																									
(全体事業)	(残事業)																								
2,606百万円	168百万円																								
[1,889百万円]																									

※ ④～⑥、⑩、⑪の[]内は前回再評価時の数値

※ 総事業費：事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※ 総費用：総事業費に維持管理費(下水道事業は更新費用も含む)を加え、その金額を現在価値化したもの

2 評価の視点

<p>⑫事業の進捗が遅れている理由（前回評価時からの変化、遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載）</p> <p>神谷橋上流 230m までの整備が完了し、さらに上流に向けた改修を進めており、現在は市道橋の架け替えを進めている。この橋梁架け替えにかかる管理者および埋設物管理者との協議に時間を要した。引き続き橋梁架け替え工事に集中投資し改修を進める。</p>
<p>⑬事業を継続することにより発揮される効果（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>事業を継続することにより、暫定計画である治水安全度 1/5 規模の流下能力を確保し、治水安全度を向上させ、その後、河川整備計画に基づいた、治水安全度 1/10 規模の計画流量を流下させることにより、昭和 53 年 6 月洪水と同規模の出水に対して、浸水被害の解消を図ることができる。</p>
<p>⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果</p> <p>治水経済調査マニュアルによる便益（水害被害想定額）には含まれないが、事業完成による効果として、以下の項目も見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 人命等の人的被害を防ぐ人身被害抑止効果・ ライフライン途絶等による波及被害抑止効果・ 人身被害や資産被害等による精神的被害抑止効果
<p>⑮社会経済情勢の変化（前回評価時からの変化についても記載）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 近年の気候変動による洪水被害の激甚化に対応するため、流域内のあらゆる関係者が協働し流域全体で水害を軽減させる「流域治水」への転換が推進されている。浸水被害を軽減させる対策として、河川整備は今後も重要な役割を担っている。・ 人件費、資材費、エネルギー価格等の上昇により、建設工事費の増加が顕著であり、総事業費の増加や事業期間の延伸が避けられない状況である。
<p>⑯B/Cの変化の要因（前回評価時から需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 浸水想定区域内の資産を最新データに見直した結果、便益（B）が増加した。・ 土質試験結果による基礎形式や施工工法の変更や、物価高騰の影響等を反映して総事業費を見直し、評価基準年度を再設定のうえ、現在価値化した結果、費用（C）が増加した。・ 治水経済マニュアル（案）の改定により、工事諸費を計上しないこととなったことから、費用（C）が減少した。
<p>⑰コスト縮減、代替案の可能性（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>平成 13 年 7 月に信濃川中流圏域河川整備計画が策定されており、河道断面等の検討を行い、現計画を最適案として取りまとめており、地域の協力体制も整っている。</p> <p>橋梁架け替えについて、管理者（長岡市）との協議により、市道橋 9 橋を 6 橋に統廃合を行うことでコスト縮減を図った。</p> <p>事業実施にあたっては引き続き発生残土の有効利用を図るなど、コスト縮減に努める。</p>
<p>⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況等（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>須川改修促進協議会から要望が寄せられており、地元からの改修要望は強い。</p>

3 今後の実施方針（案） ※今後の見通しを併せて記載のこと

これまでの事業進捗により改修済み区間について暫定整備による治水安全度 1/5 規模の流下能力が確保されている。一方、上流区間は未改修区間が残っており治水安全度が低いことから、一帯の浸水被害の解消を図るため、事業を継続することとしたい。

4 経緯

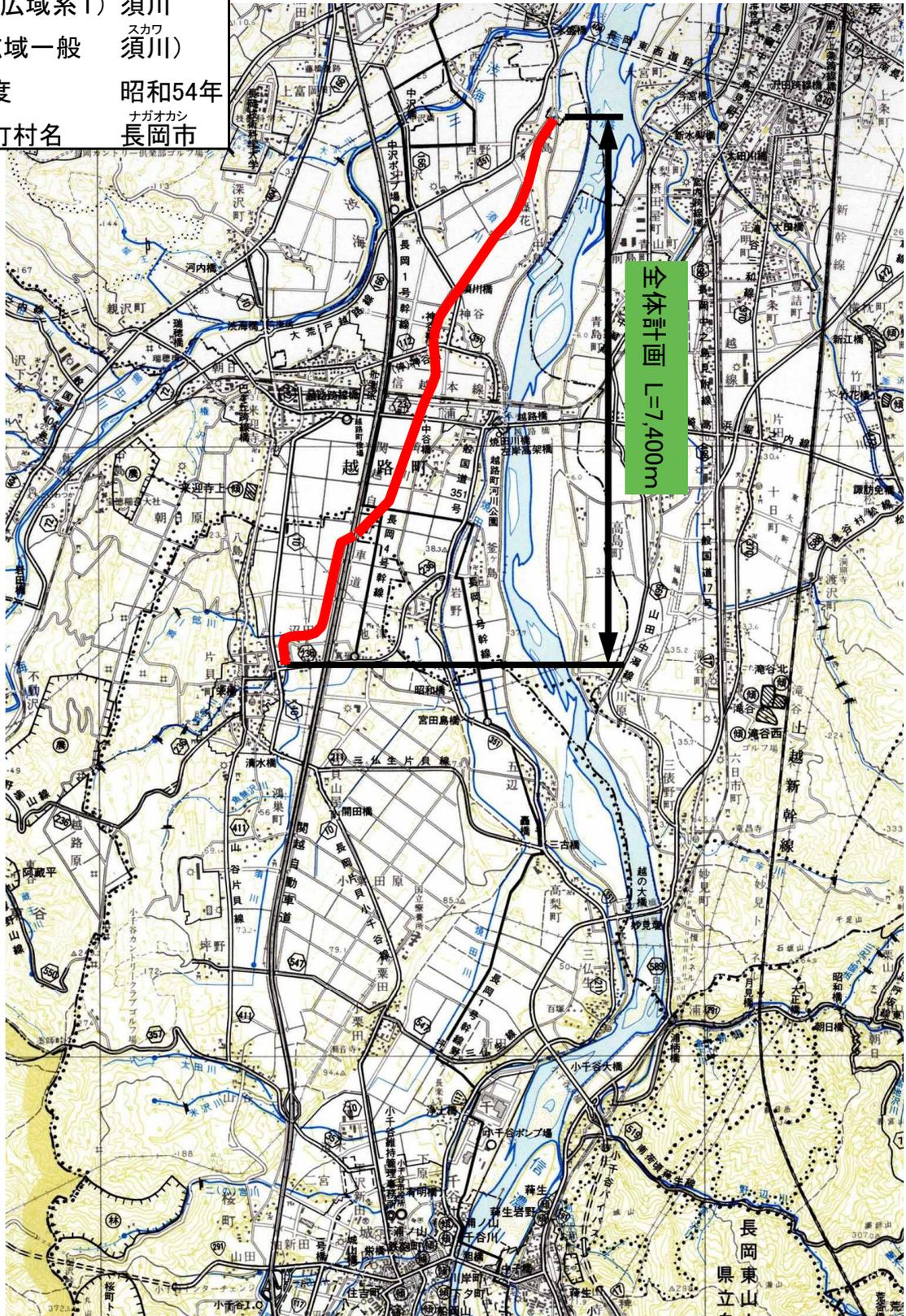
区分	当初(S54)	再評価(H14)	
工期	S54～ (1979～)	S54～H17 (1979～2005)	
総事業費	1,000 百万円	4,719 百万円	
事業内容	(全体事業) 延長 L=7,100m 築堤・掘削工 394,400m ³ 護岸工 5,500m ² 道路橋 10 橋 樋門・樋管 14 基 サイフォン 1 式 計画 110m ³ /s(1/10 規模)への改修	(全体事業) 延長 L=7,400m 築堤・掘削工 285,400m ³ 護岸工 123,400m ² 道路橋 25 橋 樋門・樋管 35 基 サイフォン 1 式 計画 110m ³ /s(1/10 規 模)への改修	(残事業) 延長 L=7,400m (改修済延長 3,700m) 道路橋 12 橋 樋門・樋管 16 基
費用対効果 (B/C)	—	B/C=3.46 全体事業 (=17,425/5,036)	

区分	前回再々評価(H22)		前回再々評価(H27)	
工期	S54～H36 (1979～2014)		S54～H49 (1979～2037)	
総事業費	6,000 百万円		6,000 百万円	
事業内容	(全体事業) 延長 L=7,400m 築堤・掘削工 285,400m ³ 護岸工 123,400m ² 道路橋 26 橋 樋門・樋管 35 基 サイフォン 1 式 着手前 30m ³ /s 計画 110m ³ /s への改修 (1/1 規模未満から 1/10 規模への改修)	(残事業) 延長 L=7,400m (暫定完了 4,900m) 築堤・掘削工 218,800m ³ 護岸工 75,600m ² 道路橋 13 橋 樋門・樋管 14 基 ※信濃川合流点から県 道神谷橋までの 3,000m については、1/5 規模で 概成。 ※関越自動車道よ り上流、県営ほ場整 備と一体で整備し、 治水安全度 1/5 規模 でほぼ概成。	(全体事業) 延長 L=7,400m 築堤・掘削工 285,400m ³ 護岸工 123,400m ² 道路橋 26 橋 樋門・樋管 35 基 サイフォン 1 式 計画 110m ³ /s(1/10 規模)への改修	(残事業) 延長 L=7,400m (暫定完了 4,900m) 築堤・掘削工 66,600m ³ 護岸工 47,900m ² 道路橋 12 橋 樋門・樋管 14 基 ※信濃川合流点から県 道神谷橋までの 3,000m については、1/5 規模で 概成 ※関越自動車道よ り上流、県営ほ場整 備と一体で整備し、 治水安全度 1/5 規模 でほぼ概成。
費用対効果 (B/C)	B/C=1.5 全体事業 (=19,244/12,604)		B/C=1.3 全体事業 (=19,209/14,971)	

区 分	前回再々評価(R2)		今回再々評価(R7)	
工 期	S54～R19 (1979～2037)		S54～R29 (1979～2047)	
総事業費	6,000 百万円		7,500 百万円	
事業内容	<p>(全体事業)</p> <p>延長 L=7,400m 築堤・掘削工 285,400m³ 護岸工 123,400m² 道路橋 26 橋 樋門・樋管 35 基 サイフォン 1 式</p> <p>計画 110m³/s(1/10 規模)への改修</p>	<p>(残事業)</p> <p>延長 L=7,400m (暫定完了 4,900m) 築堤・掘削工 65,600m³ 護岸工 47,300m² 道路橋 12 橋 樋門・樋管 13 基</p> <p>※信濃川合流点から県道神谷橋までの 3,000m については、治水安全度 1/5 規模でほぼ概成。 ※関越自動車道より上流、県営ほ場整備と一体で整備し、治水安全度 1/5 規模でほぼ概成。</p>	<p>(全体事業)</p> <p>延長 L=7,400m 築堤・掘削工 345,400m³ 護岸工 123,400m² 道路橋 23 橋 樋門・樋管 35 基 サイフォン 1 式</p> <p>計画 110m³/s(1/10 規模)への改修</p>	<p>(残事業)</p> <p>延長 L=7,400m (暫定完了 5,321m) 築堤・掘削工 124,300m³ 護岸工 46,800m² 道路橋 9 橋 樋門・樋管 13 基</p> <p>※信濃川合流点から県道神谷橋の上流 230m までの 3,167m については、治水安全度 1/5 規模でほぼ概成。 ※関越自動車道より上流、県営ほ場整備と一体で整備し、治水安全度 1/5 規模でほぼ概成。</p>
費用対効果 (B/C)	B/C=9.2 全体事業 (=181,315/19,677)		B/C=11.0 全体事業 (=294,130/26,839) B/C=31.1 残事業 (=48,364/1,555)	

位置図

総流防(広域系1)	スカワ須川
(旧広域一般)	スカワ須川)
着手年度	昭和54年
施行市町村名	ナガオカシ長岡市



状況写真



平成29年7月の出水状況
(中谷橋付近<下流から上流>)



平成29年7月の出水状況
(神谷橋付近<上流から下流>)

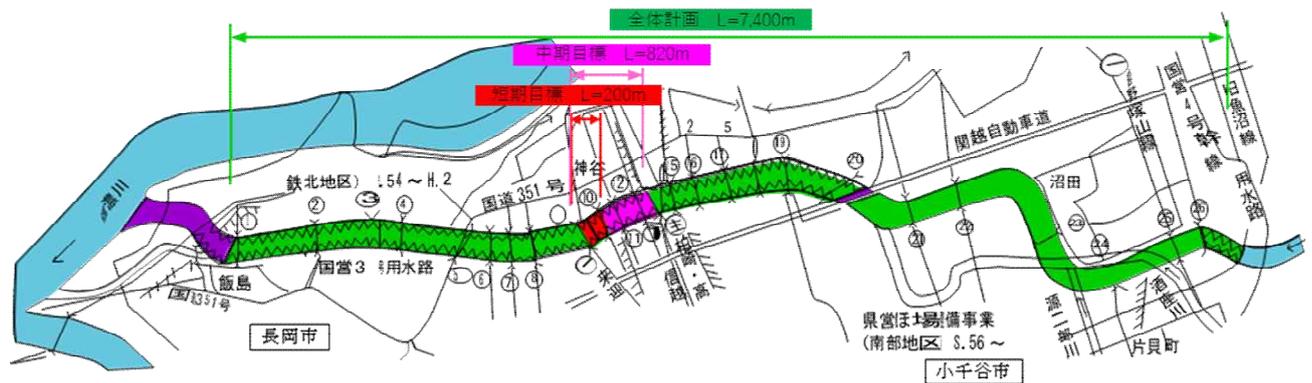


整備状況
県道神谷橋から上流を望む【実施済区間】

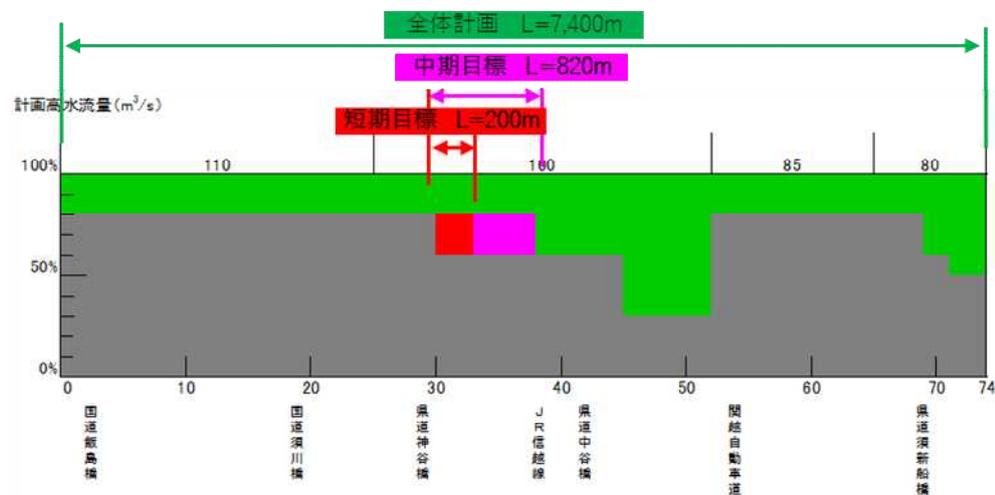


整備状況
無名橋(現橋)から下流を望む【R4年度整備区間】

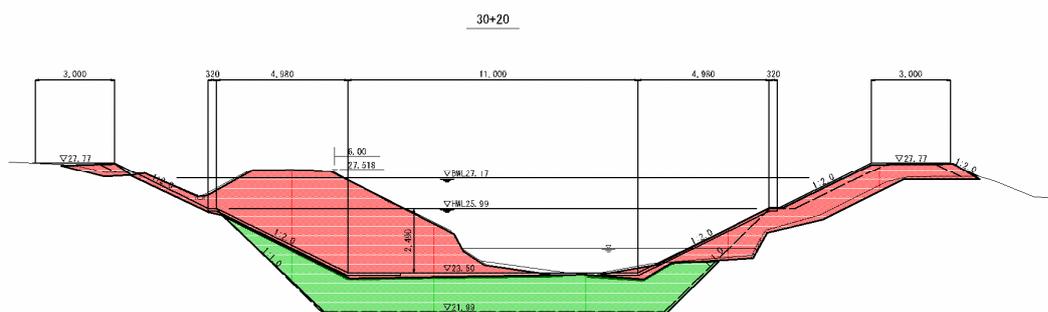
概略平面図（須川）



流下能力図



標準横断面図



将来計画

- ・ 治水安全度 1/30 規模の全川改修
全体計画（河川整備計画）
- ・ 治水安全度 1/10 規模の全川改修
中期計画(10年後)
- ・ 治水安全度 1/5 規模の延長 820m の暫定河道改修
短期計画(5年後)
- ・ 治水安全度 1/5 規模の延長 200m の暫定河道改修

令和7年度 再評価実施後5年経過した事業箇所の再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	防災・安全交付金 総合流域防災事業
事業箇所	十日町市学校町	河川名	一級河川信濃川水系田川（晒川）

1 事業の概要

<p>① 事業の目的・効果・必要性等</p> <p>一級河川田川(晒川)のある十日町市は、毎年の積雪深が2mを超え、除排雪等に伴う死傷者も出るなど、全国でも有数の豪雪地である。本事業地は、晒川ダム事業により克雪用水を確保する予定であったが、国のダム検証により平成24年7月に事業は中止となった。本事業地の屋根雪処理は機械力による運搬排雪を行っているが、道路交通障害、機械稼働スペース等の問題が生じ、近年も度重なる豪雪被害を受けるなど、克雪用水（消流雪用水）の確保が急務となっている。</p> <p>本事業（既設揚水機場増強等）を実施することにより消流雪用水を事業地内の河川等に導水することで、冬季における本事業地の民生の安定化を図るものである。</p>																																					
<p>② 事業内容</p> <p>揚水機場増強：1式 導水施設：L=660m 配水池施設：1式</p>	<p>③ 残事業内容</p> <p>導水施設：L=592m 配水池施設：1式</p>																																				
<p>④ 総事業費</p> <p>1,500百万円 [807百万円]</p>	<p>⑦ 進捗率（事業費ベース）</p> <p>61.6% (=924/1,500)</p>																																				
<p>⑤ 執行済事業費</p> <p>924百万円 [490百万円]</p>	<p>⑧ 現在の費用対効果(B/C) [基準年 R7年]</p> <p>全体 B/C=1.0 (1,822/1,782) 残事業 B/C=3.1 (1,819/597)</p>																																				
<p>⑥ R7年度以降残事業費</p> <p>576百万円 [317百万円]</p>	<p>⑨ 前回の費用対効果(B/C) [基準年 R2年]</p> <p>B/C=1.2 (1,034/888)</p>																																				
<p>⑩ 便益の内訳</p> <table border="0"> <tr> <td>被害防止便益</td> <td>(全体事業)</td> <td>(残事業)</td> </tr> <tr> <td>1,815百万円</td> <td></td> <td>1,815百万円</td> </tr> <tr> <td>[1,029百万円]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>残存価値便益</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7百万円</td> <td></td> <td>4百万円</td> </tr> <tr> <td>[5百万円]</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	被害防止便益	(全体事業)	(残事業)	1,815百万円		1,815百万円	[1,029百万円]			残存価値便益			7百万円		4百万円	[5百万円]			<p>⑪ 費用の内訳</p> <table border="0"> <tr> <td>建設費用</td> <td>(全体事業)</td> <td>(残事業)</td> </tr> <tr> <td>1,633百万円</td> <td></td> <td>448百万円</td> </tr> <tr> <td>[766百万円]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費用</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>149百万円</td> <td></td> <td>149百万円</td> </tr> <tr> <td>[122百万円]</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	建設費用	(全体事業)	(残事業)	1,633百万円		448百万円	[766百万円]			維持管理費用			149百万円		149百万円	[122百万円]		
被害防止便益	(全体事業)	(残事業)																																			
1,815百万円		1,815百万円																																			
[1,029百万円]																																					
残存価値便益																																					
7百万円		4百万円																																			
[5百万円]																																					
建設費用	(全体事業)	(残事業)																																			
1,633百万円		448百万円																																			
[766百万円]																																					
維持管理費用																																					
149百万円		149百万円																																			
[122百万円]																																					

※ ④～⑥、⑩、⑪の[]内は前回再評価時の数値

※ 総事業費：事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※ 総費用：総事業費に維持管理費(下水道事業は更新費用も含む)を加え、その金額を現在価値化したもの

2 評価の視点

<p>⑫事業の進捗が遅れている理由（前回評価時からの変化、遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載）</p> <p>地権者交渉の難航に伴う導水ルート計画の見直し等により期間を要した。今後は、導水路設置工事の際に地元と通行規制方法など調整を行うなど効率的な施工方法を検討し、工事を進める。</p>
<p>⑬事業を継続することにより発揮される効果（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>事業を継続することにより、消流雪用水を事業地内の河川等に導水することで克雪用水（消流雪用水）が確保され、冬季における本事業地の民生の安定が図られる。</p>
<p>⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果</p> <p>流雪用水導入事業評価マニュアルによる便益（歩行空間の増大、除排雪作業の軽減、交通移動時間の短縮）には含まれないが、事業完成による効果として、以下の項目も見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none">・除雪作業を行う際の人身事故発生抑止効果・消流雪による積雪厳冬期の歩行・交流空間創出に伴う地域コミュニティの活性化効果
<p>⑮社会経済情勢の変化（前回評価時からの変化についても記載）</p> <ul style="list-style-type: none">・人件費、資材費、エネルギー価格等の上昇により、建設工事費の増加が顕著であり、総事業費の増加や事業期間の延伸は避けられない状況である。・令和元年には流雪溝の受益範囲内に十日町市児童センターが完成し、付近の交通量や歩行者が増加している。
<p>⑯B/Cの変化の要因（前回評価時から需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載）</p> <ul style="list-style-type: none">・交通量推定において、R3年道路交通センサスの対象路線を、消流雪施設による受益地の近傍路線に見直した結果、自動車走行時間の短縮による便益(B)が増加した。・物価高騰の影響等を反映して総事業費を見直し、評価基準年度を再設定のうえ、現在価値化した結果、費用(C)が増加した。・配水池施工にあたり、市道の埋設物の位置を調査したところ、十日町市管理の上下道水管と干渉することが判明。導水管施工と併せて移設が必要となった結果、費用(C)が増加した。
<p>⑰コスト縮減、代替案の可能性（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>平成29年5月に信濃川上流圏域河川整備計画が策定されており、消流雪構造等の検討を行い、現計画を最適案として取りまとめている。地域の協力体制も整っている。事業実施にあたっては、引き続き資源の有効利用等をはかり、コスト縮減と事業効果の早期発現に努める。</p>
<p>⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況等（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>十日町市、地域住民からは事業推進の強い要望が寄せられている。</p>

3 今後の実施方針（案） ※今後の見通しを併せて記載のこと

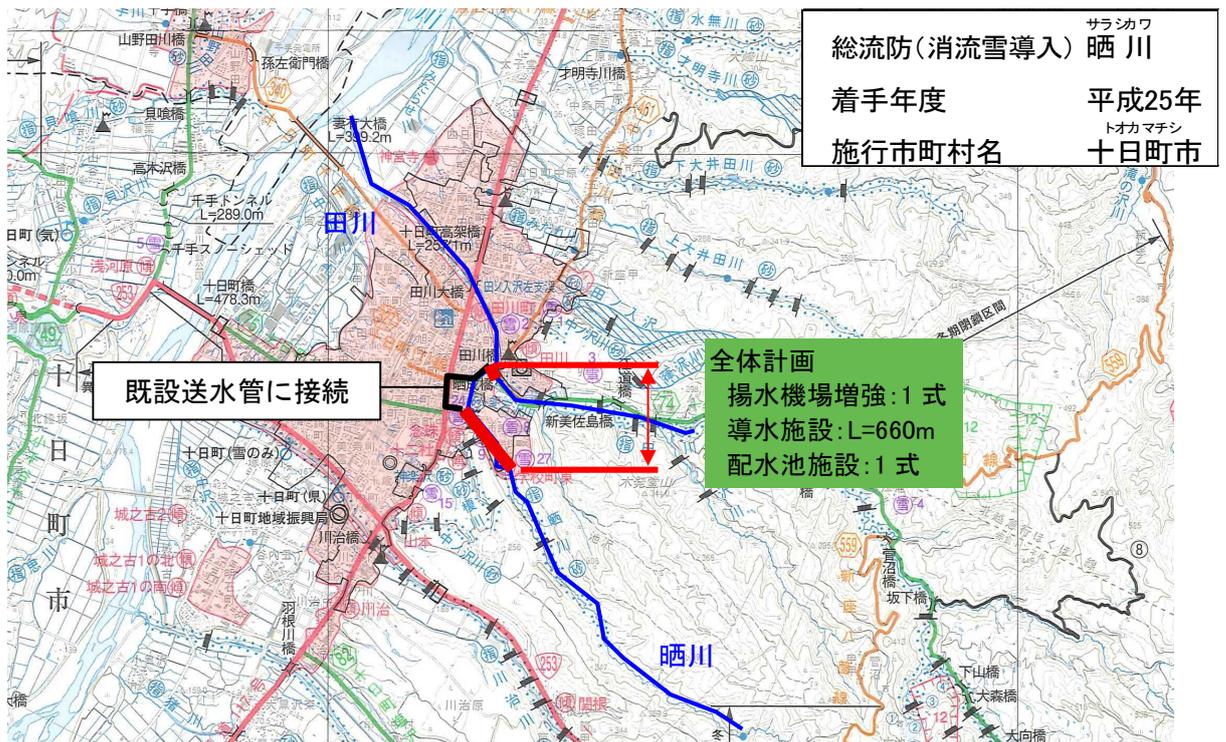
本事業は、整備内容を一体で整備してから便益が発生するものであり、これまでの事業進捗により揚水機場のポンプ増強、配水池の整備が概ね完了済みである。整備内容が完了しない限り、克雪用水（消流雪用水）の確保が困難な状況である。引き続き整備を進める必要があることから事業を継続することとしたい。

4 経緯

区分	当初(H25)	再評価(R2)	
工期	H25～H34 (2013～2022)	H25～H38(R8) (2013～2026)	
総事業費	700百万円	807百万円	
事業内容	(全体事業) 揚水機場増強：1式 導水施設：L=660m 配水池施設：1式	(全体事業) 揚水機場増強：1式 導水施設：L=660m 配水池施設：1式	(残事業) 導水施設：L=660m 配水池施設：1式
費用対効果 (B/C)	B/C=1.1 全体事業 (=792/754)	B/C=1.2 全体事業 (=1034/888)	

区分	今回再々評価(R7)	
工期	H25～H45(R15) (2013～2033)	
総事業費	1,500百万円	
事業内容	(全体事業) 揚水機場増強：1式 導水施設：L=660m 配水池施設：1式	(残事業) 導水施設：L=592m 配水池施設：1式
費用対効果 (B/C)	B/C=1.0 全体事業 (=1,822/1,782)	B/C=3.1 残事業 (=1,819/597)

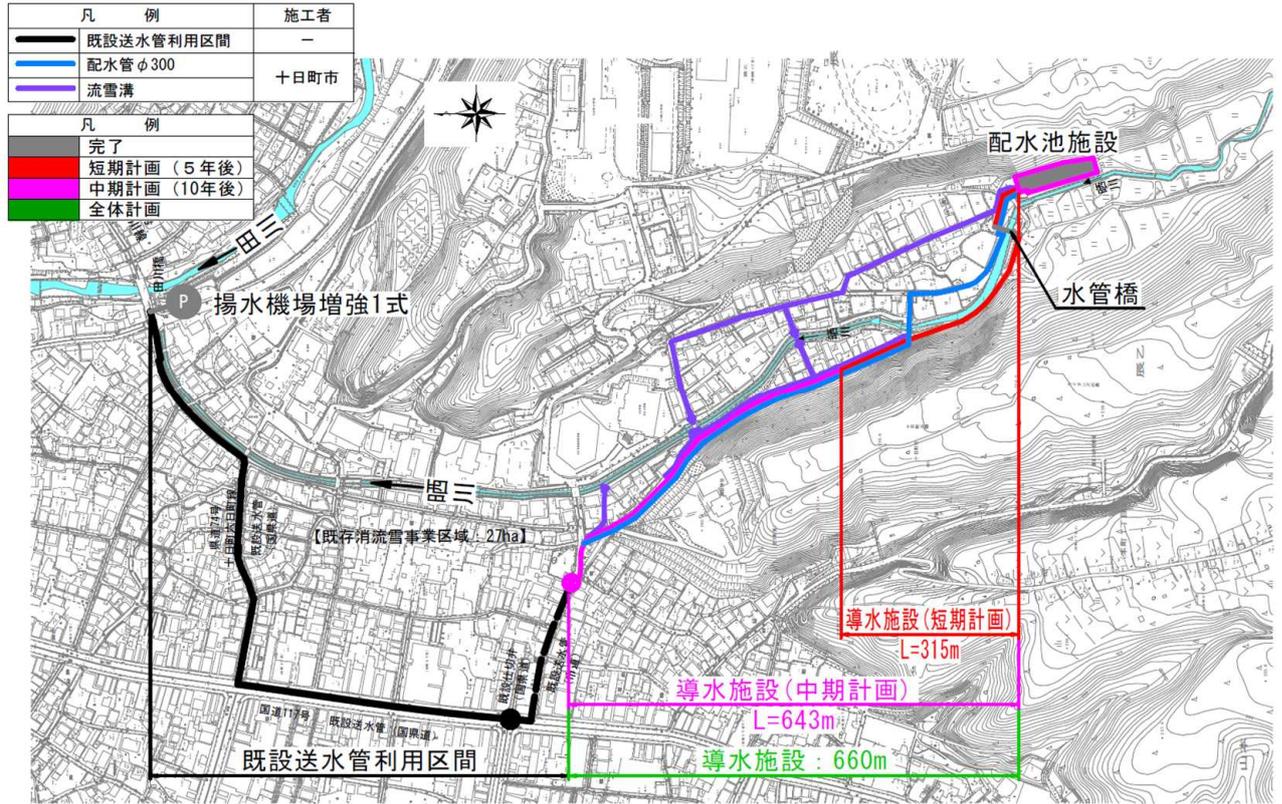
位置図（管内図更新）



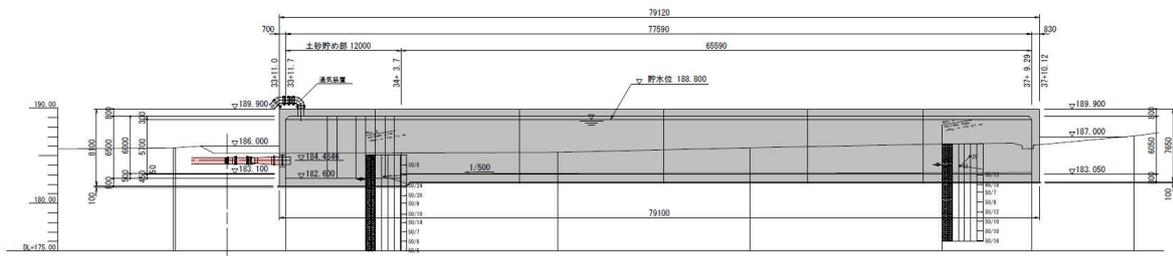
状況写真



概略平面図 (田川 (晒川))

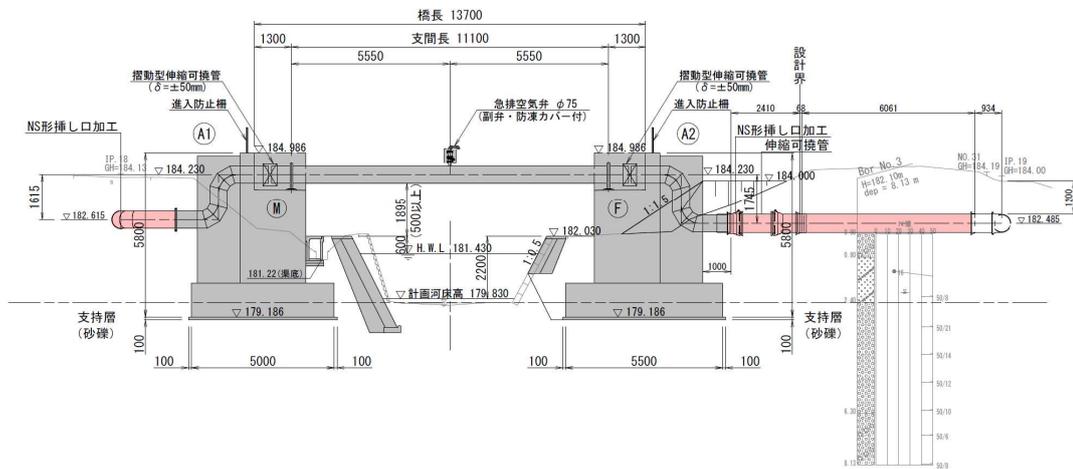


配水池一般図



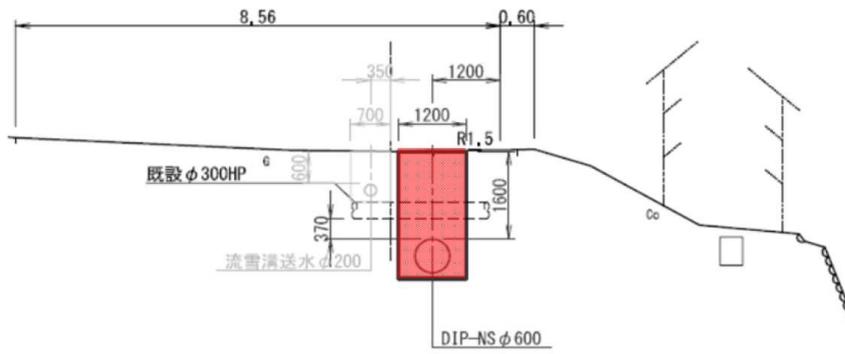
配水池施設 : 1式

側面図 S=1:100

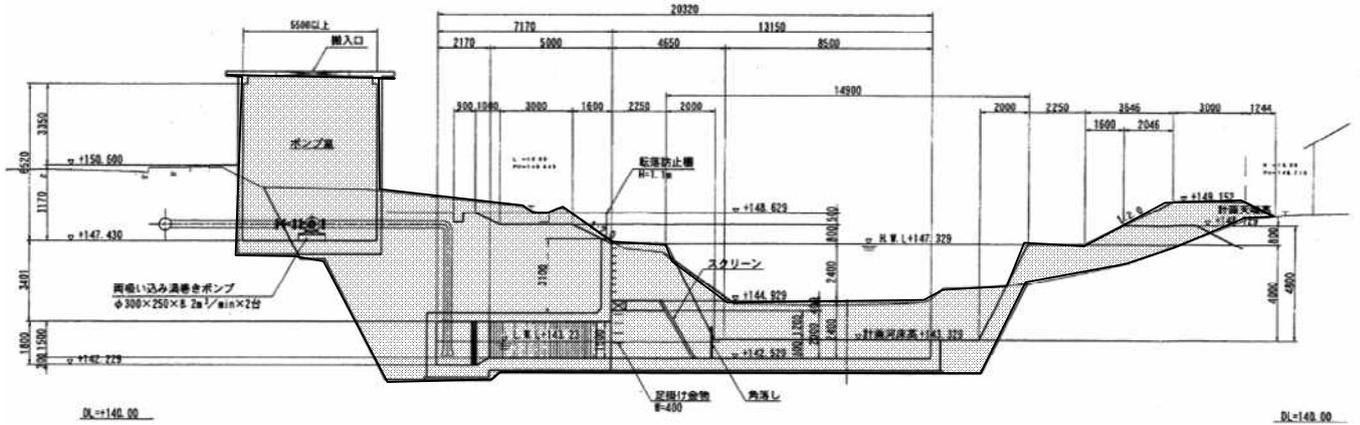


水管橋 : 1式

導水施設 断面図



導水施設 : L=660m



揚水機場増強 : 1式 (施工済)

令和7年度 公共事業再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	防災・安全交付金事業 (広域河川改修事業)
事業箇所	津南町 割野地区～足滝地区	河川名	一級河川 信濃川水系 信濃川

1 事業の概要

<p>① 事業の目的・効果・必要性等</p> <p>一級河川信濃川は、全長約367km(千曲川約214km、信濃川約153km)流域面積約11,900km²の国内で最も長い河川であるそのうち、長野県境から宮中取水ダム上流の約18kmが新潟県管理区間である。</p> <p>信濃川では、昭和57年9月洪水により、堤防の決壊により4集落で家屋や農地の浸水・流出など甚大な被害を受けたほか、昭和58年、平成16年、17年、18年など度々浸水被害が発生しており、平成29年に河川整備計画が策定された。</p> <p>令和元年度東日本台風(台風19号)では県管理区間において、床上浸水4戸、床下浸水10戸の被害を受けたほか、上流の長野県も含めた信濃川流域全体で人家や農地の浸水等多大な被害が発生したことから、上流の長野県管理区間および国管理区間と一連で当該整備区間においても流下能力の向上を目的とした河道整備を進捗させることとなった。これに伴い、令和6年10月に河川整備計画を一部変更し、7,900～8,200m³/s(確率規模1/50年)を整備計画目標流量とした。</p> <p>本事業を実施することにより、信濃川上流圏域河川整備計画の整備目標まで向上させることで、新潟県管理区間の浸水被害の解消を図ることができるほか、流域一体となった治水安全度の向上が図られる。</p>																																																																			
<p>② 事業内容</p> <p>改修延長 L=7.09km</p> <table border="1"> <tr> <td>築堤</td> <td>652,550m³</td> <td>掘削</td> <td>80,000m³</td> </tr> <tr> <td>護岸</td> <td>61,188m²</td> <td>根固工</td> <td>1,650個</td> </tr> <tr> <td>橋梁架替</td> <td>1橋</td> <td>樋門樋管</td> <td>16基</td> </tr> <tr> <td>道路</td> <td>400m</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>各工区延長</p> <table border="1"> <tr> <td>割野</td> <td>1,550m</td> <td>巻下・小島・押付</td> <td>1,600m</td> </tr> <tr> <td>美雪町</td> <td>1,050m</td> <td>段野団地</td> <td>150m</td> </tr> <tr> <td>田中</td> <td>350m</td> <td>反里</td> <td>1,400m</td> </tr> <tr> <td>灰雨</td> <td>250m</td> <td>足滝</td> <td>740m</td> </tr> </table> <p>計画 7,900～8,200m³/s(1/50 規模)</p>		築堤	652,550m ³	掘削	80,000m ³	護岸	61,188m ²	根固工	1,650個	橋梁架替	1橋	樋門樋管	16基	道路	400m			割野	1,550m	巻下・小島・押付	1,600m	美雪町	1,050m	段野団地	150m	田中	350m	反里	1,400m	灰雨	250m	足滝	740m	<p>③ 残事業内容</p> <p>改修延長 L=5.60km</p> <table border="1"> <tr> <td>築堤</td> <td>112,000m³</td> <td>掘削</td> <td>20,000m³</td> </tr> <tr> <td>護岸</td> <td>29,800m²</td> <td>根固工</td> <td>460個</td> </tr> <tr> <td>橋梁架替</td> <td>1橋</td> <td>樋門樋管</td> <td>0基</td> </tr> <tr> <td>道路</td> <td>0m</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>各工区延長</p> <table border="1"> <tr> <td>割野</td> <td>1,550m</td> <td>巻下・小島・押付</td> <td>1,600m</td> </tr> <tr> <td>美雪町</td> <td>1,050m</td> <td>段野団地</td> <td>0m</td> </tr> <tr> <td>田中</td> <td>0m</td> <td>反里</td> <td>1,400m</td> </tr> <tr> <td>灰雨</td> <td>0m</td> <td>足滝</td> <td>0m</td> </tr> </table> <p>計画 7,900～8,200m³/s(1/50 規模)</p>		築堤	112,000m ³	掘削	20,000m ³	護岸	29,800m ²	根固工	460個	橋梁架替	1橋	樋門樋管	0基	道路	0m			割野	1,550m	巻下・小島・押付	1,600m	美雪町	1,050m	段野団地	0m	田中	0m	反里	1,400m	灰雨	0m	足滝	0m
築堤	652,550m ³	掘削	80,000m ³																																																																
護岸	61,188m ²	根固工	1,650個																																																																
橋梁架替	1橋	樋門樋管	16基																																																																
道路	400m																																																																		
割野	1,550m	巻下・小島・押付	1,600m																																																																
美雪町	1,050m	段野団地	150m																																																																
田中	350m	反里	1,400m																																																																
灰雨	250m	足滝	740m																																																																
築堤	112,000m ³	掘削	20,000m ³																																																																
護岸	29,800m ²	根固工	460個																																																																
橋梁架替	1橋	樋門樋管	0基																																																																
道路	0m																																																																		
割野	1,550m	巻下・小島・押付	1,600m																																																																
美雪町	1,050m	段野団地	0m																																																																
田中	0m	反里	1,400m																																																																
灰雨	0m	足滝	0m																																																																
<p>④ 総事業費</p> <p>13,788百万円 [9,790百万円]</p>		<p>⑦ 進捗率(事業費ベース)</p> <p>71.2% (=9,816百万円/13,788百万円)</p>																																																																	
<p>⑤ 執行済事業費</p> <p>9,816百万円</p>		<p>⑧ 現在の費用対効果(B/C)[基準年 R7年]</p> <p>B/C=1.2 (17,622百万円/15,248百万円)</p>																																																																	
<p>⑥ R7年度以降残事業費</p> <p>3,972百万円</p>		<p>⑨ 前回費用対効果(B/C)[基準年 R2年]</p> <p>B/C=1.2 (9,177百万円/7,804百万円)</p>																																																																	
<p>⑩ 便益の内訳</p> <table border="1"> <tr> <td>被害防止便益</td> <td>17,387百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[8,941百万円]</td> </tr> <tr> <td>残存価値</td> <td>235百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[236百万円]</td> </tr> </table>		被害防止便益	17,387百万円		[8,941百万円]	残存価値	235百万円		[236百万円]	<p>⑪ 費用の内訳</p> <table border="1"> <tr> <td>建設費用</td> <td>13,717百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[6,947百万円]</td> </tr> <tr> <td>維持管理費用</td> <td>1,531百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[857百万円]</td> </tr> </table>		建設費用	13,717百万円		[6,947百万円]	維持管理費用	1,531百万円		[857百万円]																																																
被害防止便益	17,387百万円																																																																		
	[8,941百万円]																																																																		
残存価値	235百万円																																																																		
	[236百万円]																																																																		
建設費用	13,717百万円																																																																		
	[6,947百万円]																																																																		
維持管理費用	1,531百万円																																																																		
	[857百万円]																																																																		

※ ④、⑩、⑪の[]内は「当初」又は「直近の計画変更」際の数値

※ 総事業費: 事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※ 総費用: 総事業費に維持管理費(下水道事業は更新費用も含む)を加え、その金額を現在価値化したもの

2 評価の視点

⑫事業の進捗が遅れている理由(遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載)

一部区間においては、築堤を先行させ早期効果発現に取り組んでおり、上流の長野県管理区間および国管理区間と一連で信濃川水系緊急治水対策プロジェクトとして緊急的に整備を推進し、令和7年出水期前までに令和元年東日本台風(台風19号)の流量を越水させない対策を完了させている。引き続き完成に向けた整備を進める見込み。

⑬事業を継続することにより発揮される効果

事業を継続することにより、治水安全度1/50規模の計画流量7,900~8,200m³/sを安全に流下させることができ、令和元年東日本台風(台風19号)洪水規模に対し、越水等による家屋部の浸水被害解消を図ることができる。

⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果

治水経済調査マニュアルによる便益(水害被害想定額)には含まれないが、事業完成による効果として、以下の項目も見込まれる。

- ・人命等の人的被害を防ぐ人身被害抑止効果
- ・ライフライン切断等による波及被害抑止効果
- ・人身被害や資産被害等による精神的被害抑止効果

⑮社会経済情勢の変化

- ・令和元年東日本台風(台風19号)を踏まえ、河川整備計画が変更され、新潟県管理区間の目標流量が変更となった。
- ・近年の気候変動による洪水被害の激甚化に対応するため、流域内のあらゆる関係者が協働し流域全体で水害を軽減させる「流域治水」への転換が推進されている。浸水被害を防止軽減させる対策として、河川整備は今後も重要な役割を担っている。
- ・人件費、資材費、エネルギー価格等の上昇により、建設工事費の増加が顕著であり、総事業費の増加や事業期間の延伸が避けられない状況である。

⑯B/Cの変化の要因(前回評価時から需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載)

- ・令和元年東日本台風を踏まえた整備計画目標流量を用いた氾濫解析により、被害範囲が拡大し、被害防止便益が増加した。また、浸水想定区域内の資産を最新データに更新し、令和7年7月改訂された治水経済調査マニュアルを用いて見直した結果、便益(B)が増加した。
- ・労務費・資材単価の上昇、設計内容の見直しや、整備計画目標流量の増加により、新たに河道掘削を追加したこと等により建設費用(C)が増加した。

⑰コスト縮減、代替案の可能性(前回評価時からの変化についても記載)

平成29年5月に信濃川上流圏域河川整備計画が策定(令和6年10月一部変更)され、地元の協力体制も整っており、代替案による見直しは予定していない。また、今後の事業の実施にあたっては、他機関との調整による発生残土の流用等を検討し、コスト縮減に努める。

⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況等(前回評価時からの変化についても記載)

地元住民(津南町)は昔から浸水被害に悩まされており、また令和元年東日本台風(台風19号)においても浸水被害が発生したことから、抜本的な治水対策を望む声は非常に高い。また、津南町総合振興計画にも位置づけられている。

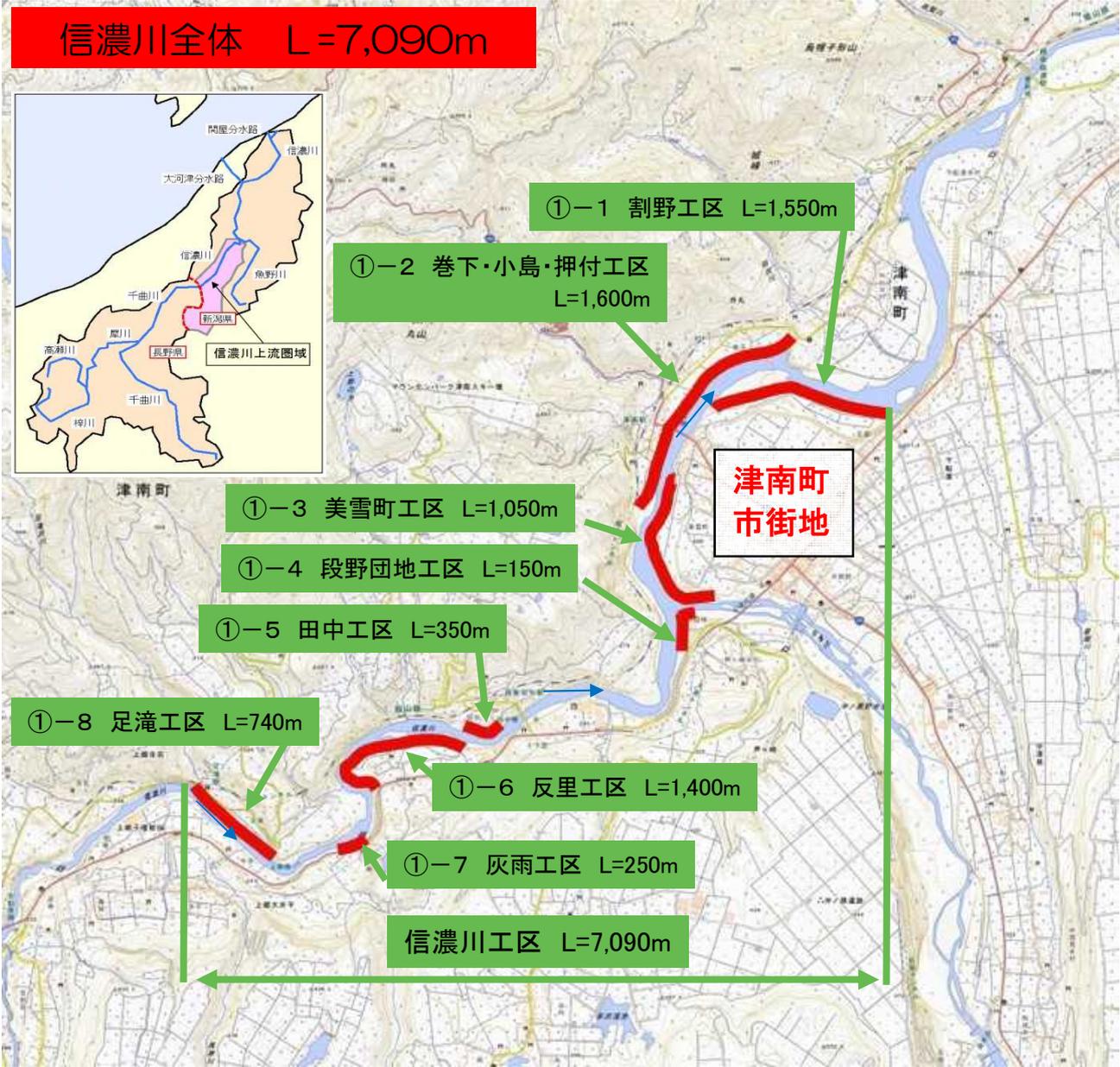
3 今後の実施方針(案) ※今後の見通しを併せて記載のこと

これまでの事業進捗により、一部工区では築堤整備を完成させている一方、未改修区間では、治水安全度の低い工区が残っている。また、上流の長野県管理区間および国管理区間と合わせた、一連の整備が必要であることから、事業を継続することとしたい。

4 経緯

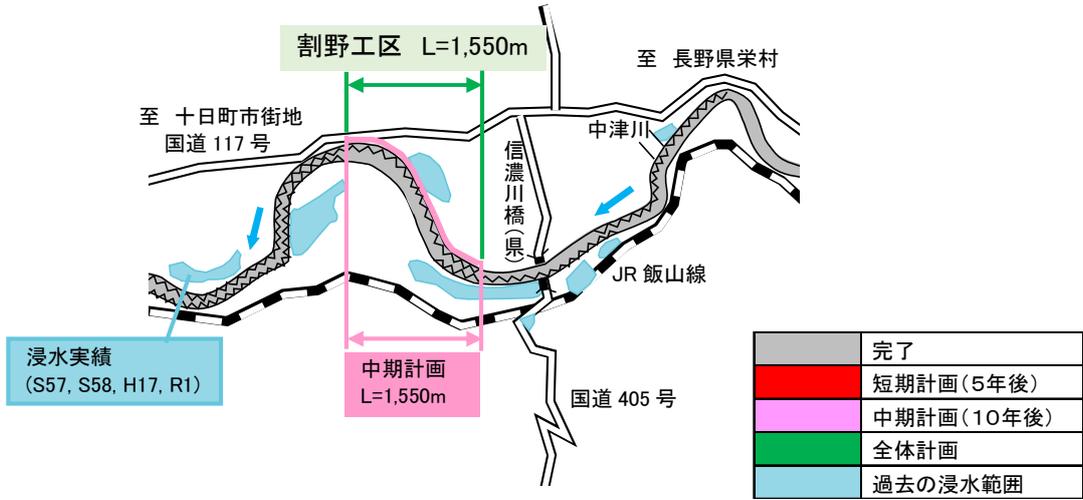
区 分	当初(H29)	再評価(R2)	今回評価(R7)
工 期	H30～H51	H30～R21(H51)	H30～R26(H56)
総事業費	5,174百万円	9,790百万円	13,788百万円
事業内容	延長 7,090m 築堤 432,715m ³ 掘削 33,930m ³ 護岸 46,535m ³ 根固工 189個 橋梁 1橋 樋門 5基	延長 7,090m 築堤 652,550m ³ 掘削 40,000m ³ 護岸 61,188m ³ 根固工 1,650個 橋梁 1橋 樋門 17基 道路 400m	延長 7,090m 築堤 652,550m ³ 掘削 80,000m ³ 護岸 61,188m ³ 根固工 1,650個 橋梁 1橋 樋門 16基 道路 400m
費用対効果 (B/C)	B/C=1.9 (=6,844 / 3,530)	B/C=1.2 (=9,177 / 7,804)	B/C=1.2 (17,622 / 15,248)

位置図

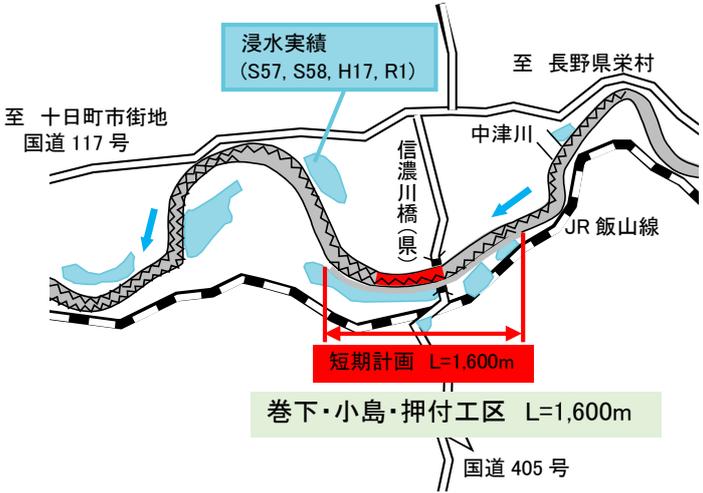


工区図

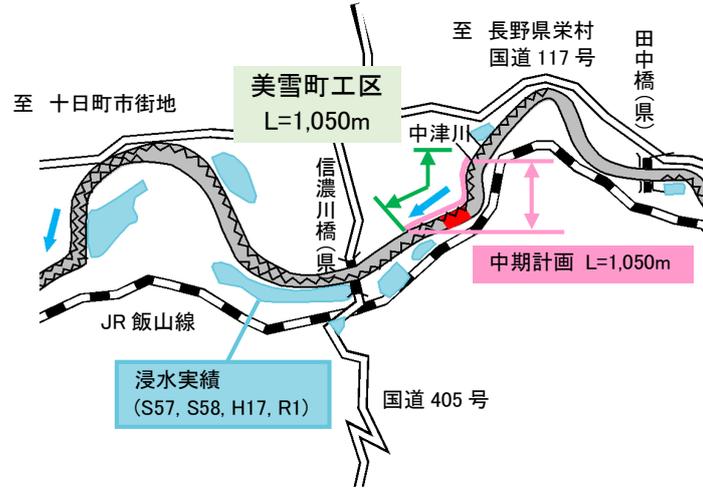
【割野工区】



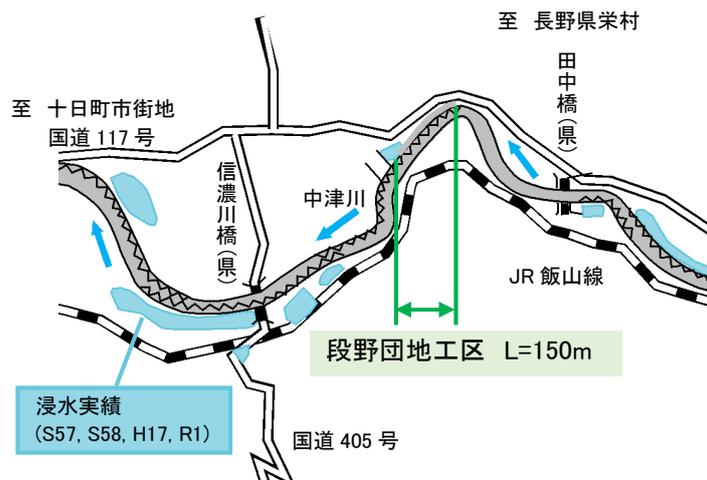
【巻下・小島・押付工区】



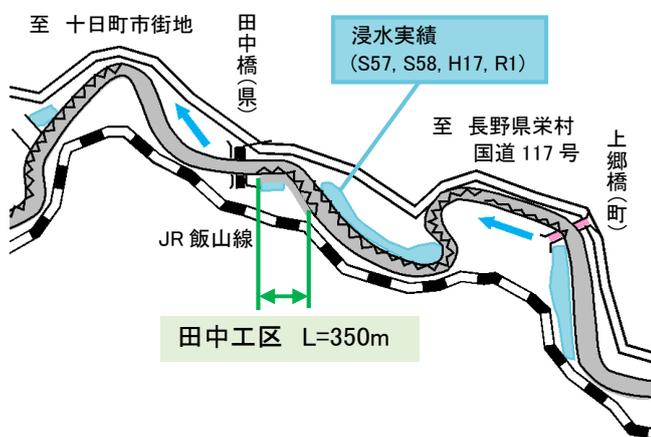
【美雪町工区】



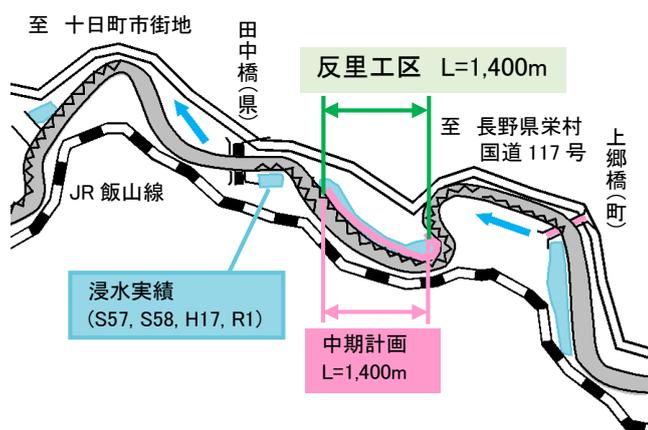
【段野団地工区】



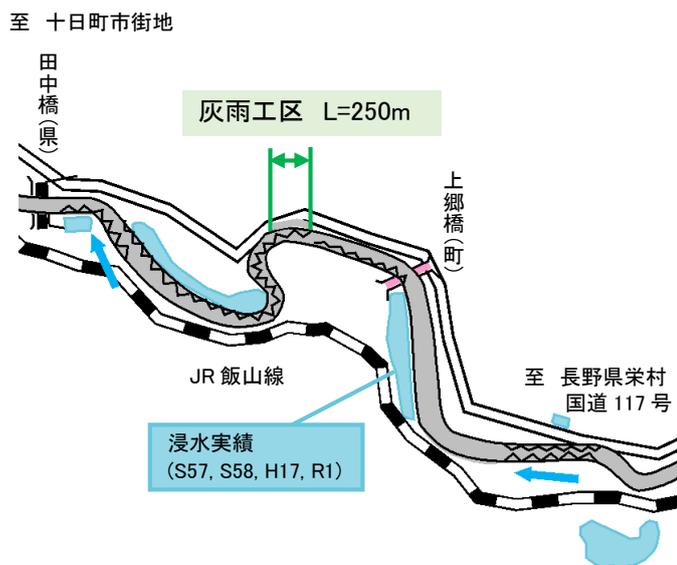
【田中工区】



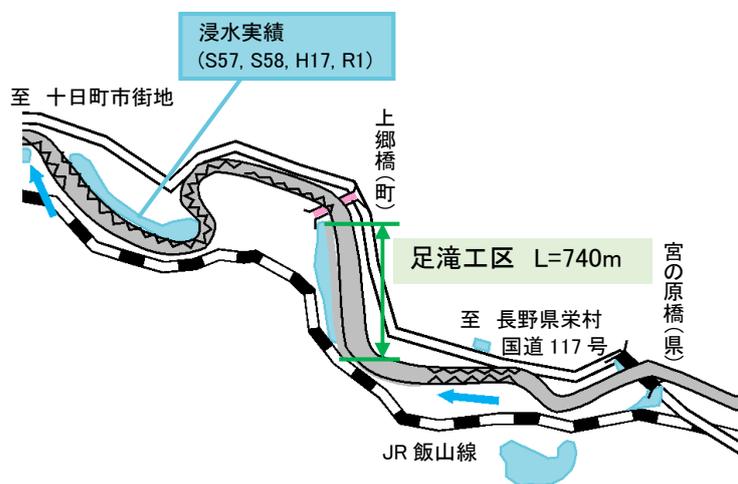
【反里工区】



【灰雨工区】



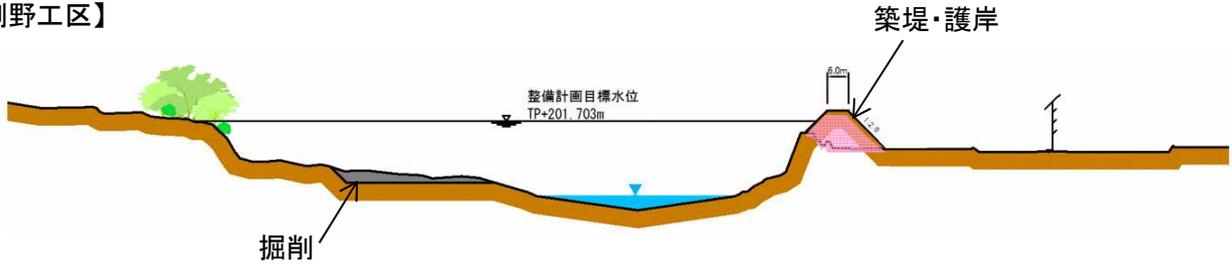
【足滝工区】



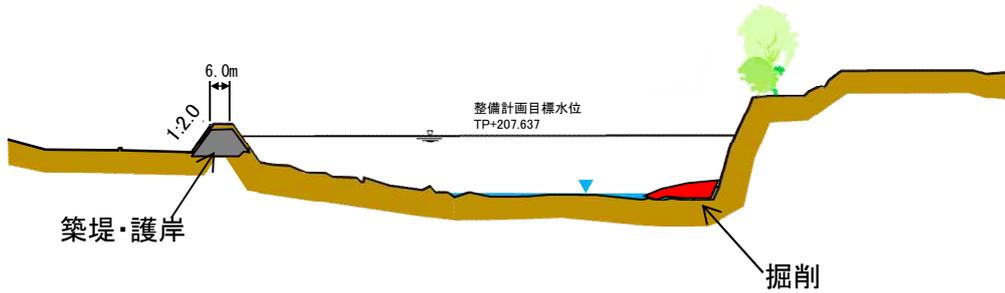
標準横断面図

※横断形は、現地精査により変更する場合があります。

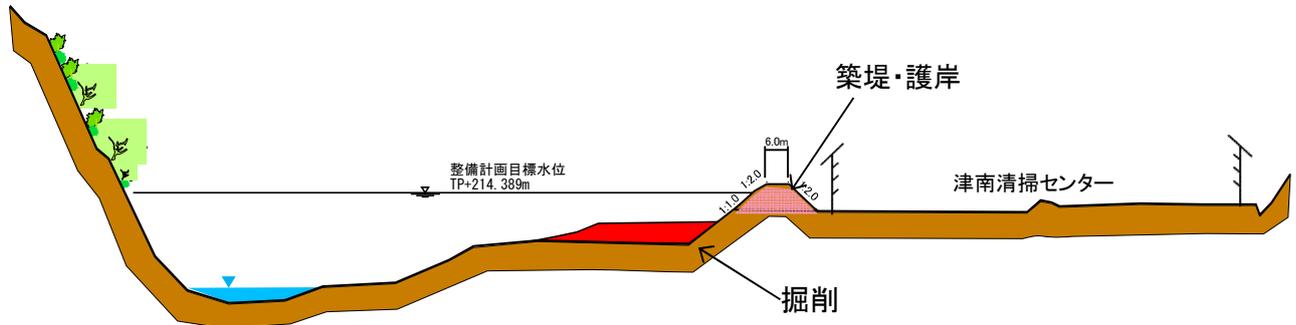
【割野工区】



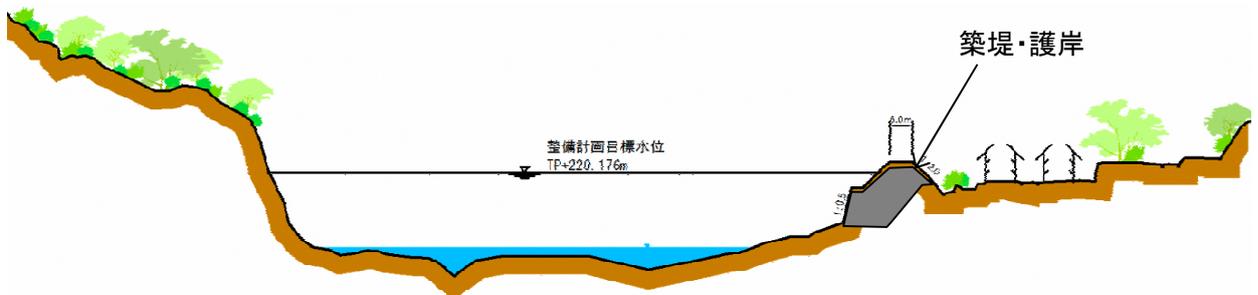
【巻下・小島・押付工区】



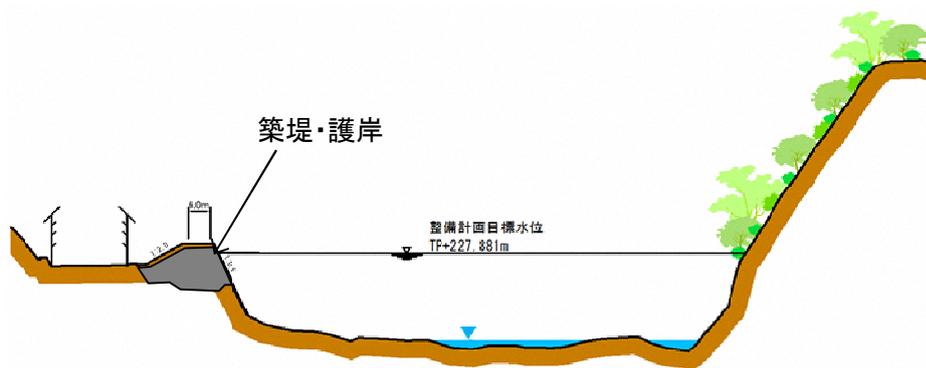
【美雪町工区】



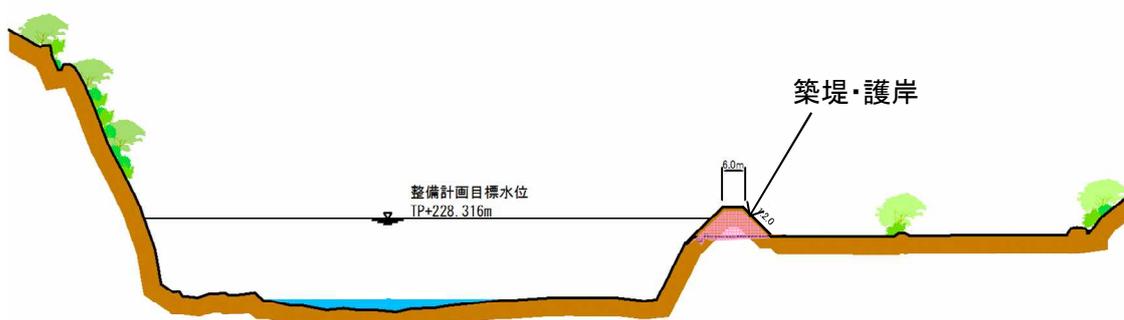
【段野団地工区】



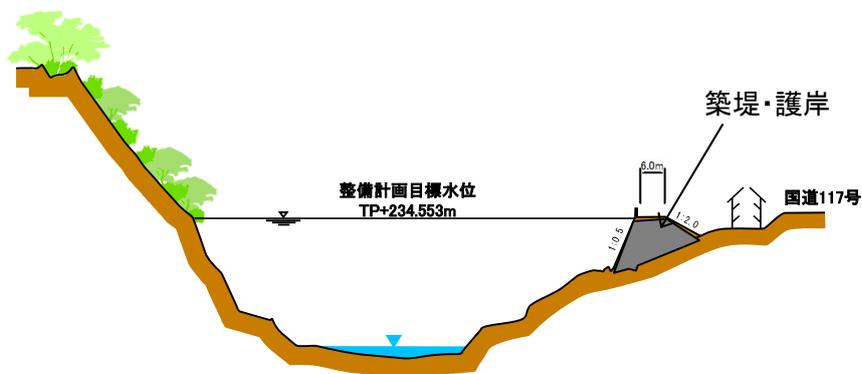
【田中工区】



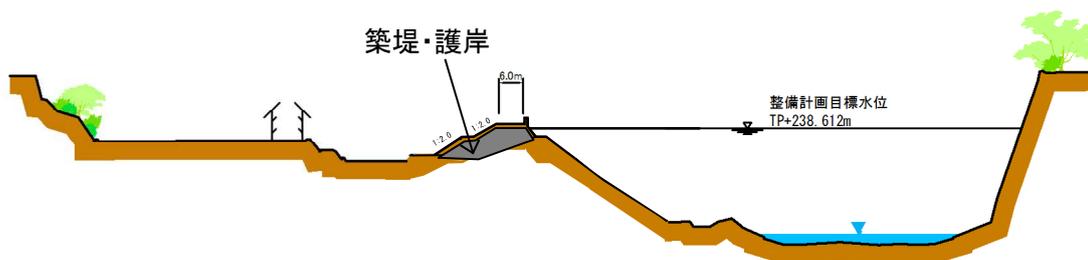
【反里工区】



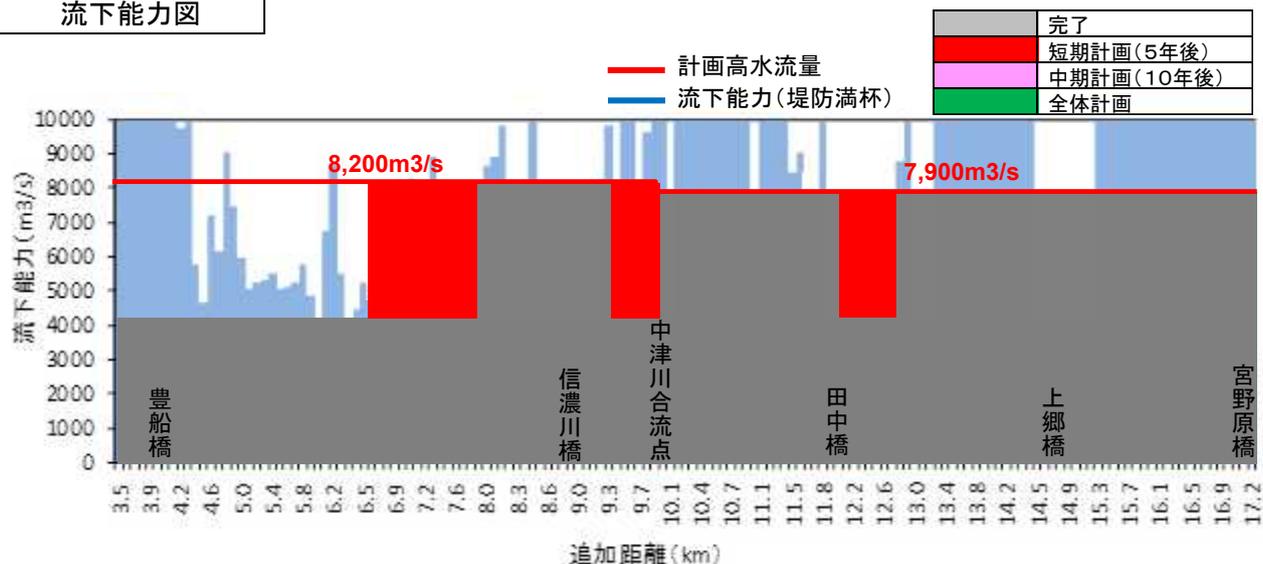
【灰雨工区】



【足滝工区】



流下能力図



全体計画（河川整備計画）

- ・割野工区 : 治水安全度1/50規模 (8,200m³/s) の計画延長1,550mの河道改修
- ・巻下・小島・押付工区 : 治水安全度1/50規模 (8,200m³/s) の計画延長1,600mの河道改修
- ・美雪町工区 : 治水安全度1/50規模 (8,200m³/s) の計画延長1,050mの河道改修
- ・段野団地工区 : 治水安全度1/50規模 (7,900m³/s) の計画延長150mの河道改修
- ・田中工区 : 治水安全度1/50規模 (7,900m³/s) の計画延長350mの河道改修
- ・反里工区 : 治水安全度1/50規模 (7,900m³/s) の計画延長1,400mの河道改修
- ・灰雨工区 : 治水安全度1/50規模 (7,900m³/s) の計画延長250mの河道改修
- ・足滝工区 : 治水安全度1/50規模 (7,900m³/s) の計画延長740mの河道改修

中期計画（10年後）

- ・割野工区 : 治水安全度1/50規模 (8,200m³/s) の河川整備計画延長880mの河道改修 (築堤・護岸)
- ・美雪町工区 : 治水安全度1/50規模 (8,200m³/s) の河川整備計画延長600mの河道改修 (築堤・護岸)
- ・反里工区 : 治水安全度1/50規模 (7,900m³/s) の河川整備計画延長1,400mの河道改修 (築堤・護岸)

短期計画（5年後）

- ・割野工区 : L=1,550m区間の築堤・護岸工事
- ・巻下・小島・押付工区 : L=1,600m区間の掘削工事
- ・美雪町工区 : L=1,050m区間の築堤・護岸・掘削工事
- ・反里工区 : L=1,400m区間の築堤・護岸工事

(参考) 状況写真



浸水した家屋(津南町足滝)
昭和 57 年 9 月洪水時



出水の様子(津南町足滝)
昭和 57 年 9 月洪水時



家屋・農地の浸水被害(津南町巻下)
昭和 58 年 9 月洪水時



農地の浸水被害(津南町巻下)
平成 16 年 10 月洪水時



浸水した家屋(津南町巻下)
令和元年 10 月 13 日洪水時



河川の様子(津南町割野)
令和元年 10 月 13 日洪水時



整備状況(段野団地工区)



整備状況(灰雨工区)